

リ。食事ハ膳立ニテ興フ。室ノ掃除ハ月三回ニシテ、運動ニ出スコトナク、入浴セシムルコトナシ。患者自カラ拭カザレバ一年モ之ヲ放置スト云フ。
病狀、被監置ハ不潔ナリ。 醫藥、主治醫無ク、服藥セズ。

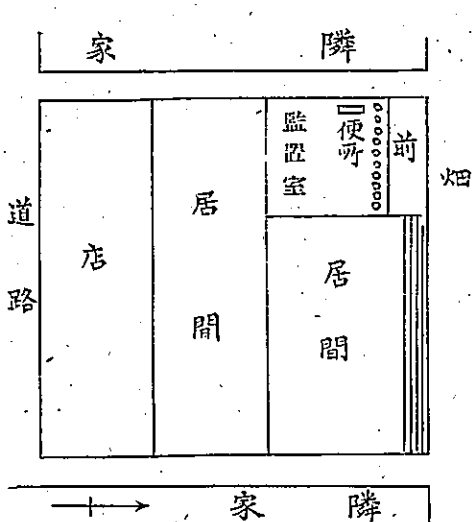
室ノ構造ハ不潔ナリ。建ヲ掛ケテ風雨ヲ防グガ如キモ面白カラズ。殊ニ室ニ對シテ廊ノアルハ、非衛生的ニシテ且ツ不快ナル感ヲ興フ。採光・換氣ニ關シテハ全ク注意セザルガ如ク甚不潔ナリ。家族モ邊鄙ノ地ニ住ム人ノコト、テ不潔ヨリ不潔ナルコトニ無頓著ニシテ衛生ニ對スル念慮ナキモノ、如ク、看護モ亦不十分ナリ。

第八十六例

〇〇縣〇〇市〇〇町〇〇番地。農。〇原〇〇。

資産、下ノ下等。 監置ノ理由、暴行、毆打ニシテ危險ナリシ爲メ。約六年前發病シ、附來普通坐敷内ニ監置セシモ、弄火等ノ危險アリシガ爲ニ、已ムヲ得ズ新ニ監置室ヲ設ケ之ニ收容セリ。

(號九十五第)圖附 例六十八第



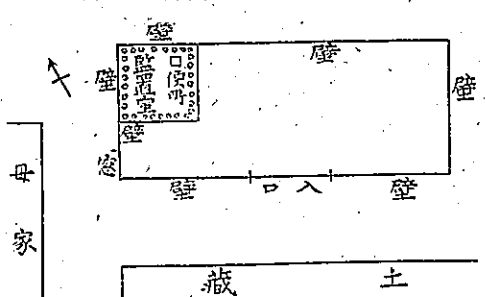
充テタルモノニシテ、東隣及ビ後方ハ居間ニ續キ、西側ハ隣家ニ密接ス。三方ハ板張リトナシテ前面ハ直徑三寸位ノ杉丸太ヲ間隔四寸置キニ竝ベアリ。前面ニ近ク右隅ニ便所口アリ。前面左寄ニ出入口ヲ設ケ。前面ハ北ニ向フ。天井ハ板張リトス。前面中央ニ一尺程ノ食物差入口ヲ設ケ、室内闇黒ニシテ外部ヨリ室内ノ模様ヲ能ク觀察スルヲ得ズ。

北向ニ室ヲ建テタレバ窓モ直接光線ノ採ルベキナク、室内闇黒ニシテ通風モ亦可ナラズ。到底病室ト稱スベキモノニアラズ、室内ヨリ甚シキ惡臭ヲ放チ堪フベカラズ。視察者ハ鼻ヲ掩フテ漸ク之ニ近ヅケリ。 病狀、被監置者ハ全裸體ニテ身ニ一布片ヲモ纏ハズ、低聲ニ獨語シツ、室内ヲ歩き廻リ居タリ。身體不潔ニシテ頭髪亂ル。之ニ近ヅクモ毫モ怖ゾル色ナシ。榮養佳カラズ。試ミニ問診スルニ言語錯亂・常意即答症ノ著シキヲ認ム。夜間不眠ナルコト多ク、興奮著シク、時ニ衝動性行爲アリト云フ。

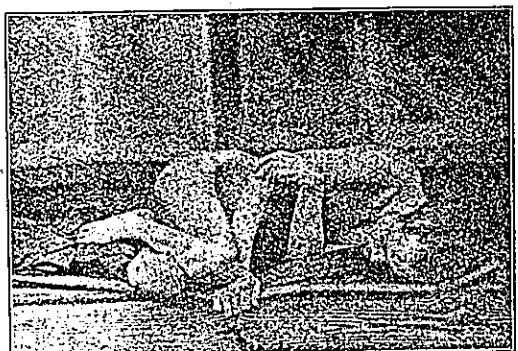
第八十七例

〇〇縣〇〇郡〇〇村〇〇字〇〇川字〇〇田〇〇十〇番地。戸主。幸〇弟。農。〇川〇士〇。明治十九年六月三日生。 監置ノ理由、暴行、毆打ニシテ危險ナリシ爲メ。約六年前發病シ、附來普通坐敷内ニ監置セシモ、弄火等ノ危險アリシガ爲ニ、已ムヲ得ズ新ニ監置室ヲ設ケ之ニ收容セリ。

(號十六第)圖附 例七十八第

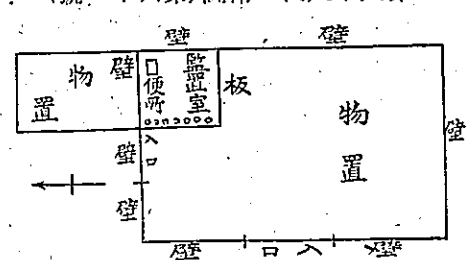


(號八十五第)眞寫 例七十八第

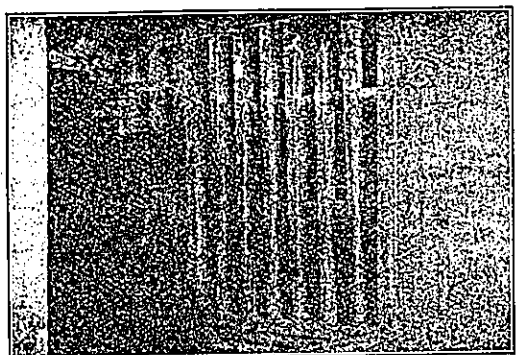


所、監置室ハ物置小屋内ニ設ケラル。小屋ハ間口六間・奥行三間アリ。正面中央ニ一門ノ出入口アリ。左側ニ三尺ニ一間ノ窓アル外、全體壁ニテ圍マル。 監置室、物置ノ左隅ニアリテ、大サハ一坪・高サ一間アリ。四方共格子造リニテ、格子ハ四寸角柱ニテ一寸間隔ニ竝ベラル。一隅ニ排便口アリ。正面中央ニ三尺四方ノ出入口ヲ設ケ。牀ハ板敷ニシテ藥ト薄ベリト敷ク。小屋内ニハ藥其他ノモノ堆積ス。室ハ採光及ビ換氣甚不十分ナリ。 病狀、被監置者ハ觀察時ノ七八箇月前ヨリ既ニ四肢ノ運動機能不十分ナレリト云フ。觀察時ニハ寫眞ニ示セルガ如ク病者ハ裸體トナリテ牀上ニ横臥シ、其四肢ハ拘攣ヲ來タシ倦縮ス。精神狀態ハ昏迷狀態ヲ呈シ、極メテ靜穩ナリキ。

(號一十六第)圖附 例八十八第



(號二十五第)一其眞寫 例八十八第



(號三十五第)二其眞寫 例八十八第



看護ハ甚シク不十分ニシテ、患者ガ斯ク四肢ニ拘攣ヲ來タシ榮養モ亦甚シク衰ヘ居ルニ對シテ、監置室内ニ放置セルハ消極的ニ殘酷ノ處置ヲナスモノト謂フベシ。

第八十八例

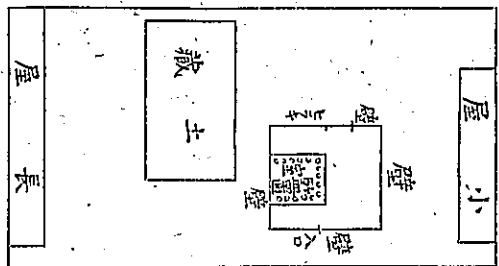
〇〇縣〇〇郡〇〇

指村大字四〇〇〇十番地。戸主。農。○岡○吉。二十六歳。

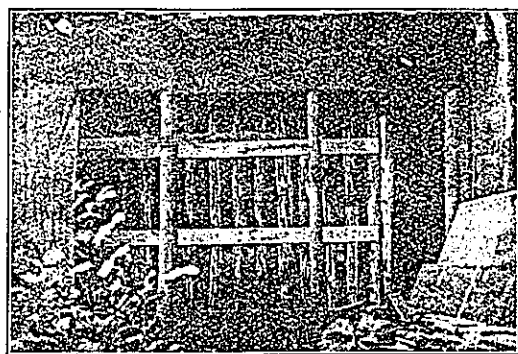
資産、中ノ中等。相當ノ資産ヲ有ス。監護義務者、妻、○シ。監置ノ理由、狂暴ニシテ火ヲ弄シ、勳モスレバ人ヲ殺傷スル念慮アリシ爲メ。

監置ノ場所、物置小屋ノ一隅ニ規定ノ如ク監置室ヲ設ク。物置小屋ハ西向キニテ、間口四間・奥行三間ア

リ。正面中央ニ一箇ノ入口アリ。左側正面寄ニ二箇ノ出入口ヲ設ク。監置室ニ綴キ、間口二間半・奥行一間ノ二階建物置小屋アリ。監置室ハ物置小屋ノ左隅ニ設ケラル。大サハ一坪・高サ一間アリ。二方壁ニシテ、右側ハ板戸トナリ、正面ハ三寸角材ニテ格子トナス。正面右下方ニ二尺四方ノ入口ヲ備フ。左隅ノ牀ニ二排便口ヲ設ク。牀ハ板敷ナリ。採光・換氣共ニ甚シク不十分ニシテ、室ヨリ發スル臭氣甚シ。病狀、被監置者ハ裸體ノマヽニテ、甚シク不潔ナリ。家人ノ待遇、看護ハ全ク放任ノ姿ナリ。監置室内ニハ薄ベリモナク、掃除モ行ハズ室内不潔ヲ極メ、物置小屋内ニハ糞堆積ス。監置、患者ハ發病當時ハ上京シ醫療ヲ受ケタルコトアルモ、視察當時ハ毫モ醫療ヲ受クルコトナシ。



(號二十六第)圖附 例九十八第



(號四十五第) 眞寫 例九十八第

光バ殆ドナク、非衛生的ナルコト此上ナシ。

病狀、被監置者ハ裸體ノマ、直接ニ板敷ノ上ニ坐シ、食物ヲ手ニス。家人ノ待遇、物置小屋及ビ其周

第八十九例

○○縣○○郡○○村○○字○○町四○○八

番地。戶主。喜○郎兄。農。齋○○。明治十四年二月二十

七日生。

資產、下等。監護義務者、實父、齋〇〇門。監護ノ時

日、明治四十三年四月二十六日。
監置ノ理由、裸體ノマ、外

出徘徊セシ爲メ。
監置ノ場所、四坪ばかりノ物置小屋内ニ監置

置室ヲ設ク。監置室、廣サ一坪・高サ一間、構造ハ直徑三寸ノ

丸太ニテ格子造リトナシ四方ヲ圍ミ、且ツ舊キ圍ヒノ外ニ新シキ

圖ヒヲ造リテ二重トナシ、極メテ嚴重ニ之ヲ造ル。初メ一重ナリ

シモ、患者一度逃走シタルコトアリシヲ以テ爾來之ヲ防禦センガ

爲ニ二重トナセリト云フ。天井ハ格子作りナリ。室内ハ闇黒ニシ

テ詳細ニ之ヲ觀フコトヲ得ズ、室ノ自然換氣ハ多少アレドモ、採

家人ノ待遇、物置小屋及ビ其周

園ハ不潔ニシテ、監置室内モ掃除セラル、コトナク、甚シク不潔ナリ。病者ニ對スル處置ハ恰モ動物ヲ取扱フガ如ク、唯患者ニ食物ヲ與フルノミニシテ、其他ノ看護ハ毫モ顧ミラレズ。蓋、監置義務者ハ日々ノ生活ニ追ハレ、到底看護ニ力ヲ致ス餘裕ナキモノ、如シ。

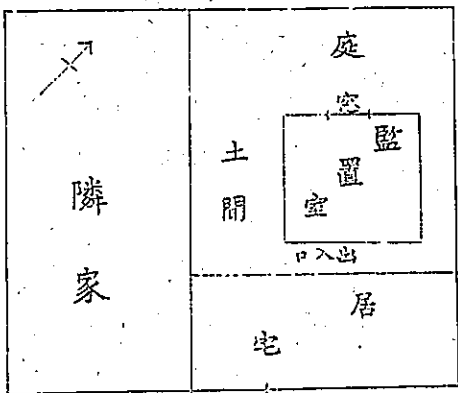
其他ノ看護ハ毫モ顧ミラレズ。蓋、監置義務者ハ日々ノ生活ニ追ハレ、到底看護ニ力ヲ效ス餘裕ナキモノ、如シ

第九十例
○○縣○○市○○町○○十番地。平民。正○長男。元小學校教員。梅○○○郎。明治八年二月一日生。

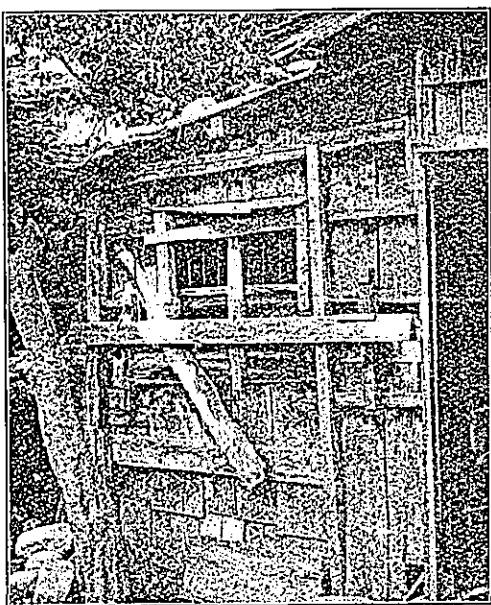
資産、下等ニシテ漸クロヲ過ゴス程度トス。監護義務者、實父、梅〇正〇。診斷、早發性癡呆(緊張病)。發病、明治三十二年十一月二十七日。

監置ノ時日、明治三十八年六月十日。
監置ノ理由、暴行。
被傳記、父ハ大酒家ニシテ壯年時一升以上ヲ傾ケタルコト屢々アリタリト云フ。

既往證、其教員トシテ職務ニ熱心ナリシガ、過度ノ勉強ヲナシ、精神異狀ヲ呈シ、暴行ヲ爲スニ至リシ爲メ。監置ノ場所、自宅奥ノ室所ノ外方、庭ノ



(號三十六第)圖附 例十九第



（號五十五第）眞寫 例十九第

方板圖ニシテ、出入口ハ屏ニ造リ、之ニ錠ヲ掛ク。食物挿入口ハ三寸四方ナリ。室内後方ニテ庭ニ面セル所ニ幅二尺、高サ一尺ノ窓ヲ設ケ、之ニ鐵棒ヲ貫キ、光線ヲ採ルニ供スルモ、十分ナルコト能ハズ。採光・換氣不真ニシテ室内溷潮ク且、不潔ナリ。建物ハ最初之ヲ造リシ時ヨリシテ粗造ナルモノナルガ上ニ、十年餘モ風雨ニ曝サレタルヲ以テ、其間破損セシ箇所モ多ク、毎時之ガ彌縫修繕トシテ有合セノ板片支柱等ヲ用ヒ、視察時ハ頑廢ニ傾キ居タル有様ハ寫眞圖ニ就テ認メ得ルガ如クナリ。屋根ハ板葺キニシテ其上ニハ其地方ノ風俗トシテ石ヲ竝ベアリタリ。不真ニシテ全ク裸體ニシテ裸ヲモ帶ビズ、鼻汁ヲ垂ラシ、無意味ハ言語ヲ絶エズ發シ居タリ。家人ノ待遇、粗惡ニシテ被監置者ニ蒲團蚊帳ヲ與ヘズ。衣服ノ供給殆ドナシ。食事ノ支給モ亦十分ナラズ。沐浴ハ稀ニ行フノミナリ。洗面所ノ裝置ナク、戶外運助ナシ。唯被監置者ガ煙草ヲ好愛スルヲ以テ

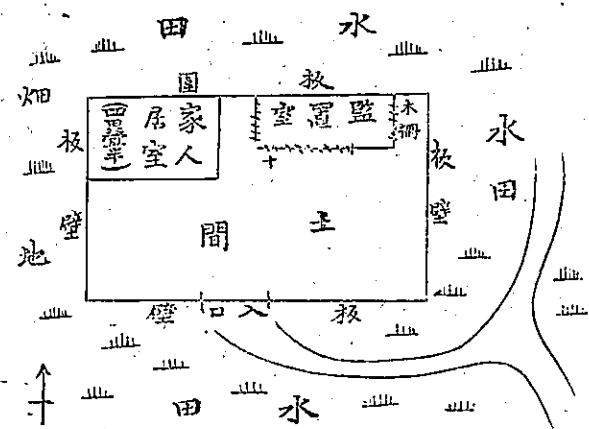
子三

時々之ヲ興フ、然ルトキハ患者ハ長時間之ヲ喫ミ糲クト云フ。生計不如意ノ爲メトハ云ヘ待遇ハ單ニ檀ニ虐待ヲセザル程度ニ止マルノミトス。名義上ノ主治醫ハアレドモ、實際ニハ醫療ヲ受ケ居ラズ。警察官ノ視察、一箇月ニ數度トス。

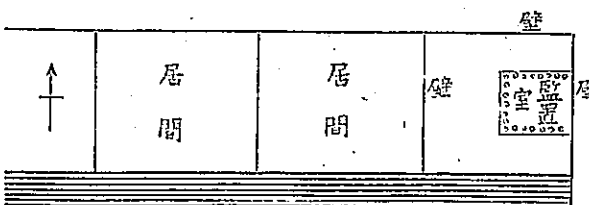
第九十一例
○○縣○○郡稻○○村○○稻○○六○○農。伊○○美○○次○○。明治十九年一月七日生。

資蔭、貧困者ニシテ他家ニ雇ハレテ僅ニ餉口ヲナス程度ナリ。監置ノ理由、外出徘徊シ他人ノ田畑ノ作物ヲ盜ミ取リタルガ爲メナリ(隣人ノ陳述)。監置ノ場所、監置室ノ周圍ハ水田ニシテ地ハ甚シク濕潤ス。時日及其經過、明治三十九年九月以降五箇年。

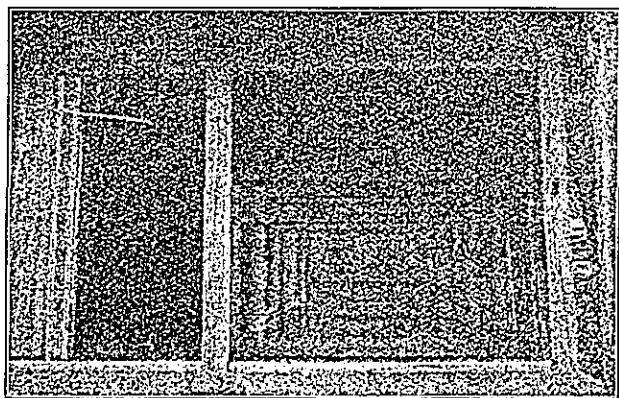
(號四十六第)圖附 例一十九第



(號五十六第) 圖附 例二十九第



(號六十五第)真寫 例二十九第



監置室ハ荒レ果テタル掘立小屋ノ一隅ニアリ。村民等ノ同情ニヨリテ建造セラレタルモノニシテ。間口二間、奥行一間ナリ。牀ハ地ヲ離ル、コト一尺ニシテ板敷ナリ。天井及び四圍ハ四寸徑丸太ノ縱横櫺ヲ以テ繞ラシ、牀ノ一隅ニ作リタル穿孔ヲ以テ便所ニ充ツ。室ノ内外ヲ問ハズ、衣服ノ破片及び糞片等雜然トシテ紛亂シ不潔ヲ極ム。採光不良ナリ。

家人ノ待遇、家人ハ貧ニシテ他家ニ雇ハレテ初メテ餬口ヲ凌グニ過ギズ、從テ被監置者ニ對シテモ三度ノ食事ノ如キサヘ完全ニハ之ヲ與フル能ハズ、ソレガ爲メニ被監置者モ裸體ノ儘、自ら監置室ヲ出デ、近隣ニ至リ食ヲ乞フヲ常トスト云フ。

病狀、近隣ノ言ニヨレバ被監置者ハ一時ハ暴行シ、危險行爲モアリシヲ以テ之ヲ監置スル必要アリタルモ、近來ハ癡癡ノ進ムニ從ヒ他人ニ對シ暴行スルコトナク、戶外ニ出ヅル時モ靜穩ナリト云フ。視察時ニハ被監置者外出申ナリシヲ以テ之ヲ檢診スルコトヲ得ザリキ。醫藥、醫治ヲ受ケズ。

警察官ノ視察、警察官ノ來訪スルコト近來全クナシトイフ。

第九十二例

九十二例
資産、下等。
監證義務者、長男、金○。
監證ノ理由、戶外徘徊。
監證ノ時日、明治三十三年九月二十八日。
監證ノ場所、居間ノ一室内。

トス、居間ハ東南ニシテハ疊敷ナリ。監置室、三方ヲ格子圍ヒトナス格子ハ三寸丸太ニテ間隔四寸アリ。大サ一坪アリ。高サ一坪。天井モ丸太格子ナリ。牀ハ板敷ノマヽニテ室内ハ甚シク不潔ナリ。病狀、被監置者ハ牀上ニ踞蹠シ居タリ。家人ノ待遇及ビ家族、看護スベキ家人ニハ二男及ビ

一 女アレドモ、長男ハ野仕事ニ追ハレ殆ド患者ヲ顧ミル暇ナク、次男ハ癩病ニ侵サレ是亦父ヲ看護スベクモアラズ。長女ハ目下行衛不明ナリ。隣人ノ助
ニヨリ辛ウシテ看護セラル、悲境ニアリ。從ツテ患者ニ對スル看護ハ甚シク不十分ナリ。

戊市區町村長ノ監護扶養又ハ補助ヲ受クルモノ

第九十三例

〇〇縣〇〇市〇町七〇二番戸。平民。〇め長男。飲食店業。角〇米〇。明治二十三年十月生。

監護義務者、〇〇市長〇〇〇〇〇。監護ノ場所、〇〇市ノ委託ニ係ル行旅病者ノ救護所ナル〇〇市〇〇町〇〇四〇番戸〇〇〇〇方離屋ニ監置セラル。

監置ノ理由、戸外徘徊破衣不潔衝動性暴行等アリシガ爲メ。
監置ノ時日、明治四十年五月二日監置ノ許可ヲ得タルモノナルガ、同四十二年七月七

日監置室ヲ破リテ逃走シ、同月十日發見收容セラル。病狀、被監置者ハ視察時ニハ寛解狀態ニアリ、監置室外ニテ掃除等ヲナセリ。管理者ノ處置、入浴ハ一日一回、洗濯ハ一箇月數回。一般ノ衛生狀態尋常ナリ。醫藥、時々市醫ノ巡回アルモ投藥ハナシト言フ。警察官ノ視察、一箇月十

第九十四例

第九十四例 ○○縣○○市○○町○○番地。當時、○○市○○町○○八番地。谷○○方同居。平民、戸主、乾物商。松○○郎明治十年三月七日生。

監護義務者 ○○市長○○○○○。監置ノ理由及ビ時日、途上ニ彷徨セシヲ以テ明治四十三年五月二十一日監置ノ許可ヲ得、行旅病者救護所ニ監置セリ。

病狀、目下ハ寛解狀態ニアルモノ、如シ。管理者ノ處置、入浴三日目ニ一回、室外運動モ三日目ニ一回位ニテ、洗濯ハ一箇月數回家族ノ手ニテ之ヲ行フト云フ。衛生狀態尋常ナリ。

醫藥、市醫ノ巡回時々、投藥ナシ。警察官ノ視察、一箇月十回。

第九十五例

第九十五例 ○○縣○○市○○町○○十三番地。平民、下駄職。○中○三郎。生年月日未詳。

監護義務者、市長、同前。監置ノ時日、明治四十四年四月二十六日監置ヲ許可セラル。監置ノ理由、誇大妄想ノ爲メ刺戟性トナリ、周圍ヲ敵視セシカタメナリ。病狀、被監置者ハ監置室内ニ直立シ、尊大ナル姿勢ニテ誇大的ノ言ヲ弄シ居リ、榮養稍々不良ナリ。管理者ノ處置、被監置者ハ入浴・運動ヲナサシムルニ適セザルモ、毎朝監置室内ニテ身體ヲ拂拭セシムト言フ。洗滌一箇月數回。醫藥、市醫時々巡回スルモ投藥ナシ。警察官ノ視察、一箇月十回。

第九十六例

第九十六例 ○○縣○○○郡○○○部村。當時。○○市○○町○○番地。平民、眞○長男、農。向○藤○。明治十一年九月十五日生。

監護義務者、市長、同前。發病、明治二十三年中。監護ノ理由及ビ時日、明治二十八年三月戶外ヲ徘徊シ、數箇所ニ放火、セシコトアリ。同月二十日監置セラレ、同年八月十日ニ至リ症狀消退セルヲ以テ監置ヲ廢セシニ、同年十一月二十八日再度諸所ヲ徘徊シ數箇所ニ放火セシヲ以テ、翌二十九日行路病者救護所ニ監置シ視察時ニ至ル。病狀、被監置者ハ緊張性體位ヲトリテ室隅ニ蹲マリ、毫モ周圍ニ注意セザルガ如シ。榮養少シク不食ナリ。

管理者ノ處置、入浴及ビ運動ハ三日目ニ一回ノ割合ナリ。洗濯一箇月數回。醫藥、市醫ノ回診時々。服藥セズ。警察官ノ視察、一箇月十回。

第九十七例

第九十七例 ○○縣○○郡○○村○○小○○原無着地。平民、農。鶴○○重○○。三十二歲。

監護義務者、市長、同前。 監置ノ理由及ビ時日、戶外徘徊又ハ破衣等ノ興奮症狀アリタルヲ以テ、明治四十二年四月二日監置ノ許可ヲ受ケ、行路病者救護所ニ監置セシガ、同年十一月十九日同所ヨリ逃走シ、諸所徘徊ノ末、翌四十二年六月二十八日發見、同所ニ引渡サル。病狀、被監置者ハ癡呆ニ陥レルモノ、如ク、表出運動少ク、顔面假面狀ヲ呈シ且蒼白ナリ。

管理者ノ處置、入浴ハ三日目ニ一回ナルモ運動ハナシ、洗濯ハ一箇月ニ數回行フ。

醫藥、市醫ノ同診時々。服藥セズ。 警察官ノ視察、一箇月十回。

第九十八例

第九十八例 ○○縣○○郡○○村○○番地。當時、○○市○○町。宮○ま○じ。生年月日未詳。

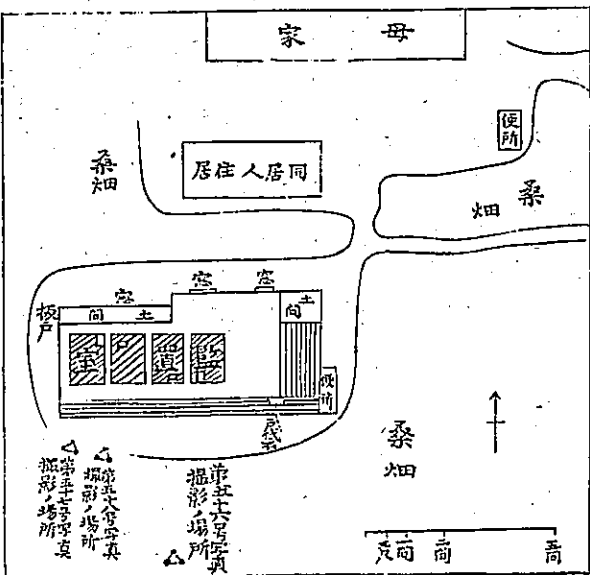
監護義務者、市長、同前。 監置ノ時日、明治四十四年七月十九日。 監置ノ理由、徘徊・多辯・刺戟性等ノ證狀アリシ爲メ。 病狀、目下證狀輕快シ四日前ヨリ監置室ヲ出デ、管理者ノ母家ニアリテ同家ノ裁縫ヲ手傳ヒ居レリ。今尙多少發揚性多辯ニシテ、感情轉換性ナルガ如ク、談話中落涙ス。榮養佳良ナリ。

管理者ノ處置、入浴・洗濯等スベテ管理者ノ家族ニ準ズ。 醫藥、視察時ニハ、モハヤ服藥ヲ廢シ居タリ。

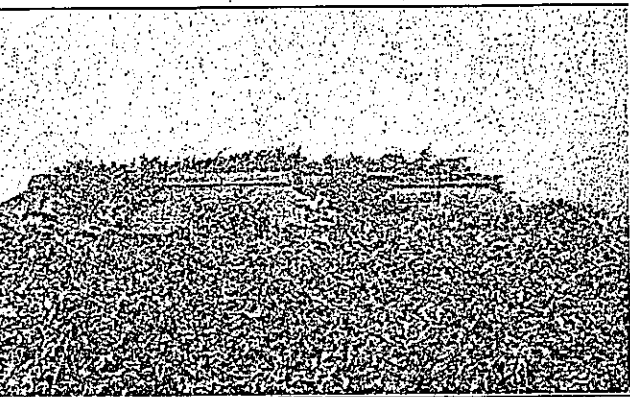
前記セル第九十三例・第九十八例ハ○○市行路病者救護所ニ收容セラレタル被監置者ノ實例ナリ。左ニ同所ニ於ケル設備ノ一般狀況ヲ述ブベシ。

行路病者救護所ハ○○市南端○○町。里俗、○○ニアリ。平民、農、○○○○ノ經營ニ係リ、同人ハ市ノ午砲竝ニ降霜豫報信號ノ管理ヲナシ、市ヨリハ行旅病者一人ニ付一日食費十五錢宛ヲ交付スル特殊ノ規定アリ。收容所ハ間口七間半、奥行二間半、牀下二尺ノ南向竪竈ノ平家建ニシテ桑畑ノ中ニアリ。

(號六十六第)圖附 例八十九第至乃例三十九第



(號七十五第) 眞寫 例八十九第至乃例三十九第



俗子窓ヲ穿テリ。監置室ハスベテ四室アリテ全建物ノ九分ノ五ヲ占メ、殘餘ノ八坪ニハ他種ノ行旅病者四人ヲ收容シアリタリ。

第一室ニハ向○藤○及び鶴
○重○ノ二人ヲ容ル。間口
一間・奥行九尺・高サ六尺ア
リ。四壁ハ三寸角・間隔三寸
ノ木材ノ格子ヨリ成リ、牀
竝ニ天井ハ厚サ一寸ノ板ニ
テ二重張トス。格子ニハ上
下二箇所ニ徑三分ノ鐵棒ヲ
横貫トシ、前面ノ西寄半分
ヲ同様格子張ノ扉トナシ、

其中央ニ高サ五寸・幅八寸ノ食物差入口アリ。銷鑰ハ扉ノ高サノ半バニ日本錠一箇ヲ備ヘ其上下ニ各一箇ノ輪釘ヲ打込ミアリ。扉ニ接スル兩端ノ格子ニハ
四ヲ通ズベキ鐵ノ角金ヲ打込ミアルモ現在ハ四ヲ用ヒズ。室ノ北東隅ニ幅五寸・長サ一尺五寸ノ排便口アリ。牀下ニ壺ヲ埋メ置キ三日目毎ニ掃除ス。藤○ノ
所有品ハ簀・古蒲團・古單衣各一枚。重○ノ所有品ハ古蒲團・古單衣各一枚・鐘詰空鐘一個・箸一對ナリ。

第二室ニハ宮〇ま〇ジヲ收容シ置キタルモ目下ハ晝間ハ空室ナリ。室内ニ簾一枚、蚊帳一張、團扇一本、巾著、襦アリ。構造第一室ニ同ジキモ横貫ノ鐵棒ハ三本ナリ。扉ハ幅二尺八寸、高サ三尺ニシテ、南側西寄ニアリ。横貫一本ヲ備フ。扉ノ中央ニ方リ凹ヲ通スベキ角金ヲ兩側ノ格子ニ打込ミアリ。一側ノ角金ノ上ニハ輪釘アリテ、之ト角金トニ通ジテ錠ヲ下スベキ裝置ナルモ、現在ハ錠ヲ用ヒズ。扉ノ上側中央部ニ高サ五寸、幅八寸ノ食物差入口アリ。室ノ北西隅ニ幅五寸、長サ二尺五寸ノ排便口アリ。

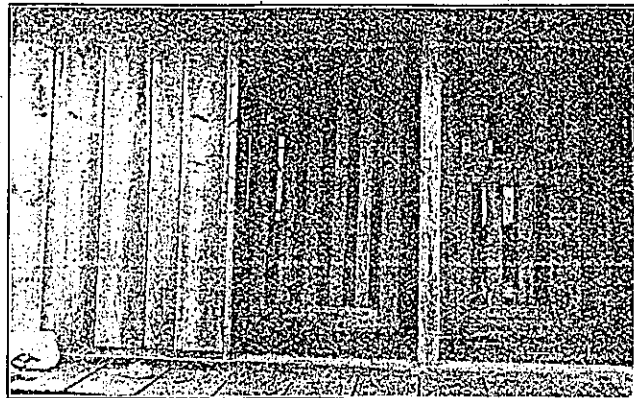
第三室ノ構造モ亦第二室ニ同シ。南側ノ西寄半分ヲ扉トシ、角金ニテ中央ノ高サ二三寸角ノ凹ヲ通ズ。扉ニ接スル東側ノ格子上ノ角金ト凹ニ打込メル輪

釘トヲ通シテ日本錠一個ヲ施シアリ。扉ノ中央ニテ上三分ノ一ノ高サニ、高サ五寸・幅八寸ノ食物差入口アリ。排便口ハ室ノ東南隅ニアリテ幅二寸長サ一尺五寸アリ。此室ノ被監置者ハ〇中〇三郎ニシテ、顔ニ錯亂シタ音語ヲ弄ス。室内ニハ古蒲團・南京米袋各一枚・茶碗ノ破片ヲ見ル。

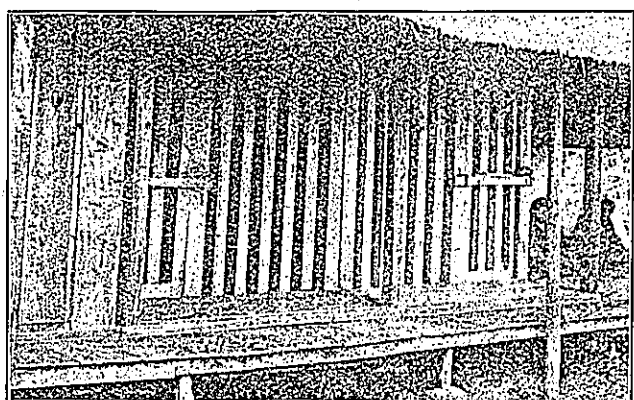
第四室ニハ松〇〇郎ヲ收容ス。構造第三室ニ同ジ。南側ノ東寄ニ幅二尺八寸ヲ扉トシ、其中央ニ凹トシテ三寸角ノ材木ヲ通シ、兩側格子ニ打込ミタル角金ニテ固定ス。其東側ノ角金ト凹ニ打込ミタル輪釘トヲ通シテ日本錠一個ヲ施シアリ。東側三尺ノ高サニ高サ五寸・幅八寸ノ食物差入口アリ。室ノ西南隅ニ幅三寸・長サ一尺二寸ノ排便口アリ。室内ニハ新シキ蒲團・小蒲團各一枚・枕一個・籠詰空罐一個・日本風景詩集・雜誌「文庫」各一冊・及新聞紙數葉アリ。被監置者ハ讀書ニ餘念ナシ。本救護所ハ半公・半私ノ特殊ナル設備ナルガ、構造ハ如何ハシキモノナレドモ、採光・換氣良好ニシテ、清潔方モ比較的佳良ナリ。

管理者ハ相當ノ同情ヲ以テ收容患者ヲ過スルモノ、如シ。殊ニ病狀輕快セルモノヲ管理若ノ監督ノ下ニ室外ニテ作業セシムルハ、恰好ナル家族の看護方トシテ推奨スルニ値ス。

(號八十五第) 眞寫 例八十九第至乃例三十九第



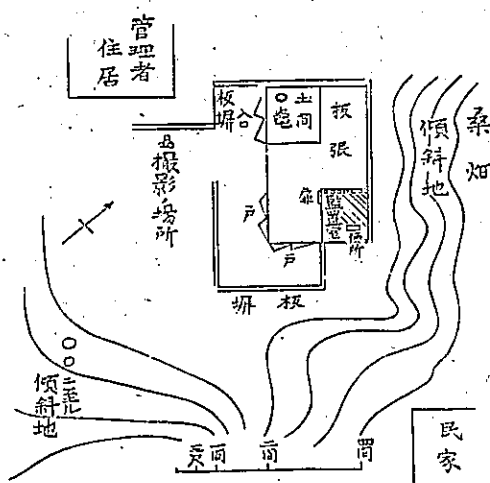
(號九十五第) 眞寫 例八十九第至乃例三十九第



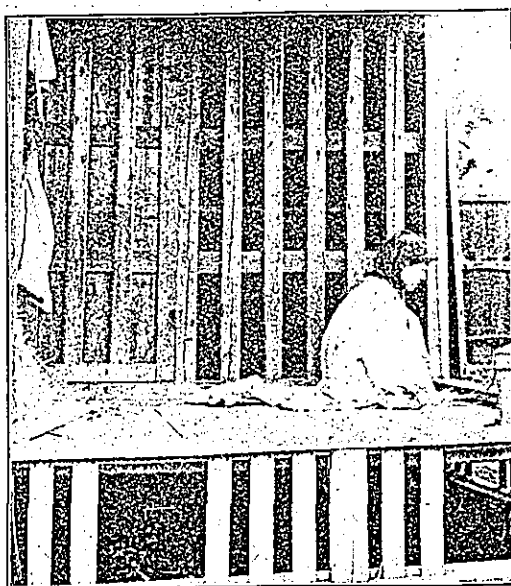
第九十九例 住所不明。無職。玉〇た〇。三十三歳。

監置ノ理由時日經過 明治三十九年三月中〇〇市ヲ徘徊セル爲メ、同市役所ハ同市〇〇町〇十五番地某ニ委託シ同番地所在ノ市立行路病者收容所ニ收容セルモノニシテ、監置以來滿四箇年ヲ經タリ。收容所ハ〇〇市ノ南端〇〇町ト稱スル特殊部落ニアリ。間口三間・奥行二間ニシテ背ニ高サ六尺ノ屋ヲ有シ、土地濕潤ニシテ南西ニ面シ、南側ト西側ノ半部トニハ高サ五尺ノ板塀ヲ繞ラス。監置室、其東南隅ニアリテ間口奥行各六尺・高五尺五寸ナリ。東南・北ノ三面ハスベテ板塀トナシ、西側ハ幅四寸・間隔四寸ノ木格子ニシテ、上下二箇所ニ厚三分・幅五寸ノ横貫ヲ具フ。扉ハ北寄ニ幅三尺ニテ同様ノ板塀格子トナシ、二箇所ニテ金具ニテ固定セラレ輪鍵一箇ヲ備フ。天井並ニ牀ハ共ニ板張ニシテ、東南隅ノ牀ニ幅四寸・長六寸ノ排便口ヲ穿

(號七十六第) 圖附 例九十九第



(號十六第) 眞寫 例九十九第



チ、下ニ木箱ヲ備フ。牀ノ高二尺アリ。採光通氣ノ度ハ尋常ナリ。病狀被監置者ハ經血ノ附著セル不潔ナル衣ヲ纏ヒテ室隅ニ踞ル。榮養不良ナリ。平素面ヲ洗ハズ、沐浴ヲナサズ。

第百例

(號一十六第) 眞寫 例百第



管理者ノ處置、室内ニハ茶碗・土瓶各一箇・襪襪少許アリ。室内掃除ハ毎日一回・洗濯ハ一箇月二回ノ割合ニテ之ヲ行フ。警察官ノ視察、一箇月十回。醫藥市囑託醫ハ二箇月ニ一回位巡回シ來ルト云フ。

監置ノ理由、〇〇市ノ某理髮店ニ奉公中發病シ、爾來長髮ノ儘戸外ヲ徘徊シ、或ハ他家ニ侵入シテ暴行シタルガ爲メナリ。監置ノ場所、〇〇市ガ精神病者監置室トシテ特ニ設置セル別建物ナリ。監置室、間口一間・奥行二間半ヲ有ス。向ツテ右壁及ビ後方ノ壁ハ板張ヲ以テ圖マレ、其左側及ビ前方ハ二寸五分角材ヲ用ヒ格子ヲ設ケ。室ノ右後方ノ一隅ニ穿孔アリ以テ排便口トナス。管理者ノ處置、室

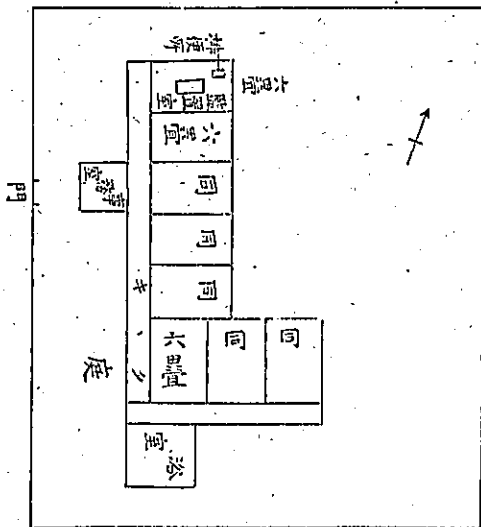
内ニハ蒲團・衣服各一枚・木枕一個アルモ、就レモ不潔ヲ極ム。

思フニ市ノ施設トシテ精神病者收容所ヲ有スルモノハ多ク其類ヲ見ザル所。視察者ハ此設備アル同市ニ對シテハ精神病者ノ幸福ヲ視セズンバアルベカラズ。本例ニテハ一老婆ガ市ノ委託ヲ受ケ看護給食ノ任ニ當ルモ因ヨリ貧民ノ一閑仕事ニ過ギザレバ、看護ニ必要ナル温情ニ乏シキハ蒲團・衣服等ノ餘リニ不潔ナルコト及ビ老婆ノ陳述セルコトヨリテ容易ニ洞察シ得ベキハ遺憾ナリ。更ニ一歩ヲ進メテ看護・救療ノ完全ナランコトヲ望ムヤ切ナリ。

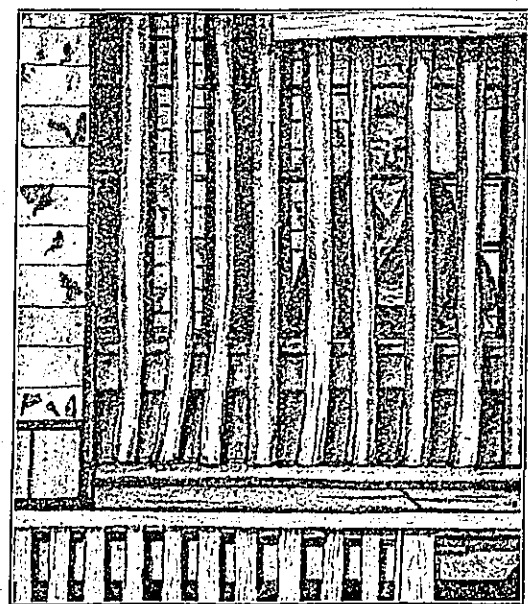
第百一例 ○○縣○○郡○○町○○字○○川○○町○○八○○十二番地。平民、○吉長男、農。松○○○郎。明治十四年二月十九日生。資産、之ナシ。 監護義務者、實弟、○井○久○。 監置ノ時日、大正三年五月十一日。 發病、明治四十二年七月十五日。 診斷、早發性癡呆。

遺傳記、不明ナリ。 既往歴、郷里ニ於テ銀行ノ書記タリシガ、後上京シテ文學博士○○○○ノ學徒トナリ、○○館ニ通學シテ哲理解ヲ攻究中、明治三十七年七月申精神變調ヲ呈セシコトアリタルモ、暫時ニシテ治癒シ、後歸郷セリ。常ニ○○博士ヲ崇拜シ、ソノ著書ヲ愛讀シ感激ノ餘リ服世觀ヲ起シ明治四十二年七月精神異常ヲ呈セリ、○○博士ノ媒介ニヨリ、○○姫ト婚約成立セリト云ヒ、或ハ町内ノ者ノ中、大逆事件ヲ企ツルモノアリト屢々警察

(號八十六第) 圖附 例一百第



(號二十六第) 眞寫 例一百第



ヲ悲ミ、兄ヲ毒殺シ己モ自殺セント企テ、或時癡ニ餓頭中ニ昇來錠ヲ混シ兄ト與ニ之ヲ食シ、苦悶シ居ル所ヲ人ニ發見セラレ、醫師ノ應急手當ヲ受ケタルモ、妹ハ遂ニ死亡シ、本被監置者ハ吐劑ニヨリテ中毒死ヲ免レタリ。 監置ノ理由、火氣ヲ弄シ、社會的危險性ヲ帶ビ、又妹ノ自殺ハ愈之ガ監置

ニ注意セシコトアリ。被監置者ノ妹ハヨク兄ニ仕ヘテ其疾病ヲ看護スルコト篤ク而モ其ノ容易ニ治癒セザル

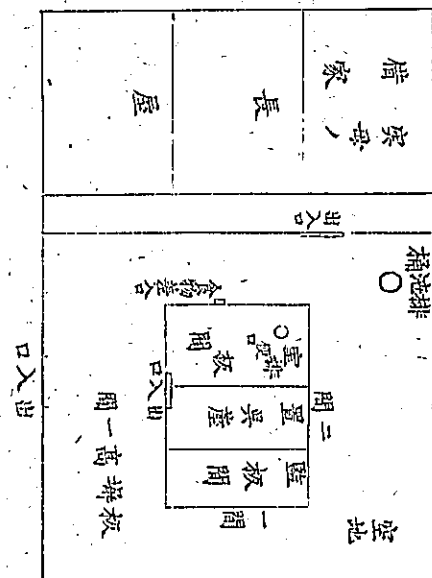
ヲ必要トスルノ動機ヲ作レリ。

監置ノ場所、監置室ハ○○町立傳染病隔離舍内ニ在リ。同隔離舍ハ海岸ニ近ク位置シ、十年前ノ創立ニ係リ、視察時ニハ荒廢ニ傾キ居タリ。當地方ニハ傳染病ノ流行趣ク創立以來僅ニ數名ノ患者ヲ收容セシニ過ギズト云フ。隔離舍ハ木造ニシテ病室九個ヲ有シ、何レモ日本風ノ構造ニシテ六疊間ナリ。 監置室ハ東方ノ六疊間内ニ設ケラレ、三寸角杉ヲ以テ間口一間半・奥行一間・高さ一間ノ欄柵ヲ設ケ、天井ハ板張リトナス。二疊半ハ疊ヲ敷キ、半疊ハ牀板トナス。此牀板ニ排便口ヲ開キ、蓋ヲ以テ被フ。出入口ハ高三尺・幅二尺ノ抽屜ニシテ之ニ横木ヲ渡ス。角材ノ一部ヲ切り食物差入口トナス。 病狀、被監置者ハ不潔ナル飛白單衣ヲ著ス。間フニ未ダ嘗テ洗濯セシコトナシト答フ。姓名ヲ呼ベバ、汝ハ誰ナリヤト反問ス。即チ名刺ヲ與フルニ大ニ喜ビ、切リニ警察ノ不法監禁ヲ怨嘆シ、精診ノ後出監セシメヨト懇フ。神經衰弱ニハ罹リ居ルモ精神病ニハ非ズト主張シ、先年上京セシ時醫科大學○○○内科ニテ受診セシ際ノ處方箋ヲ提示シ、且ツ腕ヲ差シ出シ診察ヲ要求ス。乃チ檢スルニ體格榮養中等度、身體證狀ニ異常ヲ認メズ。精神證狀ニ於テモ應需運動正常ニシテ智力缺損餘リ著シカラズ、唯、被害妄想ノ存在スルヲ認メタリ。從來ハ室内ニ小器ヲ備ヘ、毎日自ラ室内ノ掃除ヲ爲セシセ、等ノ廢物ニ歸シタル後ハ其支給無キヲ以テ清掃スル能ハズト告グ。 管理者ノ處置、監置室ノ疊上ニハ蒲團・蚊帳・飛白單衣・給羽織・心理學書・滑稽雜誌・藥錄等アリ。沐浴ハ監置セラレタル以來未ダ一回モ之ヲ行ハズト云フ。排泄物除去ハ十日毎ニ一回ナリ。 醫藥、主治

醫藥ヨリ毎日藥餌ヲ給セラレ、毎月二・三回ソノ診察ヲ受ケ。 醫藥官ノ視察、毎月數度トス。

第百二例 ○○縣○○郡○○町大字○○市村○○十一番地。平民、菊○○郎長男、魚商。○藤○○郎。明治九年八月三日生。

(號九十六第) 圖附 例二百第



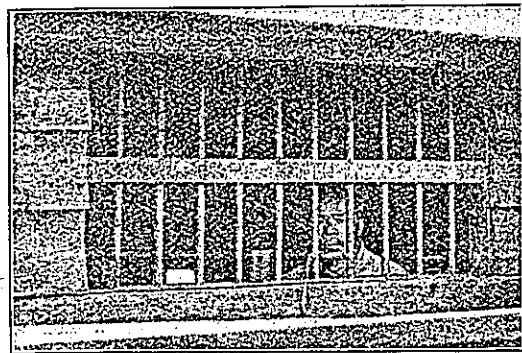
(號三十六第) 眞寫 例二百第



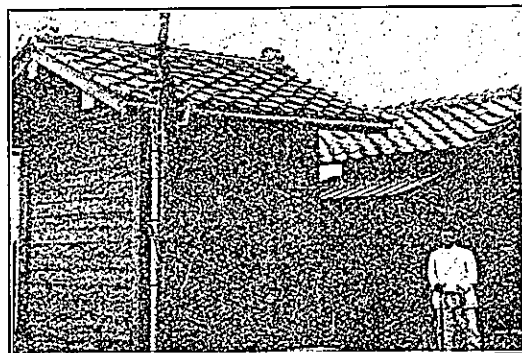
資産、最下等。 監護義務者、〇〇町長〇〇〇。 發病、明治四十年五月上旬。 監置ノ時日、明治四十三年十二月五日。 診斷、早發性癡呆。 遺傳記、遺傳ナシト云フ。 既往證、明治四十年四月二十日頃内縁ノ妻〇〇セハ貧苦ヲ厭ヒ、二人ノ小供ヲ打捨テ、〇〇市ヘ逃走シタルヨリ、其後本人ハ追慕シ〇〇市中ヲ搜索中、同市〇〇區〇〇町ニテ妻ノ所在ヲ發見シ、之ニ邂逅シタルモ、妻ハ長女〇〇ツヲ置キ捨テ、再び逃走シタリ。明治四十三年五月初旬ヨリ精神ニ異常ヲ呈シ、歸國後モ〇〇町大字〇〇〇字〇〇音町、日蓮宗、〇〇堂住職某ガ忠告ヲ苦メントノ目的ヨリ祈禱ヲ以テ苦痛ヲ送り來ルモノト妄想シ、之ガ理由ヲ訊シ、場合ニヨリテハ之ヲ殺害セン、然ラザレバ我身體ノ安全ヲ保ツコト能ハズトテ、憤激スルコト屢ナリ。 監置ノ理由、前記ノ妄想ヲ有シ、又他人ニ危害ヲ加ヘントセンコトアリシヲ以テ之ヲ監置セリ。 監置ノ場所、監置室ハ町立ニ係リ、町役場ヨリ二丁許リ隔リタル實母ノ借家ノ後方ナル空地内ニ在リ。 監置室、周圍ハ空地ヲ存シテ一間ノ高サノ板塀ヲ繞ラズ。 監置室、間口二間・奥行一間・高サ一間半・牀下二尺。縦ニ五寸角材ヲ樹テ竝ベ、横ニ之ニ鐵棒ヲ二段ニ通シ、外部ノ羽目板トシテハ幅一尺・厚サ二寸位ノ厚キ板ヲ針金ヲ以テ連結セルモノヲ用フ。又土蓋トシハ徑五寸位ノ丸太ヲ敷キ、屋根ハ木ノ葉葺キナリ。出入口ハ間口ニ當リテ三尺四方ノ大サニシテ横木ト錠及ビ針金ヲ以テ之ヲ嚴メ。食物差入口ハ奥行ノ下部ニ五寸四方ノ裂罅ヲ鑿ツ。室内ハ四疊ノ廣サヲ有シ、牀ハ板敷ニテソノ内一疊ニハ蒲團・雜物類ヲ置ク、但シ蚊帳ノ備ヘナシ。炭竈一疊ヲ敷キ、作業用ノ絲一束アリ。他ノ二疊ニハ何モ敷カズ、此處ニ便口アリ、之ニ對スル地上ノ糞壺ニハ糞塊ノ溜溜スルヲ認メタリ。屋根ノ遺漏アリテ觀察ノ前日來ノ降雨ノ爲メ、此ノ二疊ノ部位ハ濡レ居タリ。嘗テ患者ガ亂暴シテ破壞セン跡トシテ、五寸角材ノ一尺許リ破損セル處數箇所ヲ見タリ、鐵棒ノ抜ケタル所モアリタリ。換氣ハ不其ナルモ、採光ハ比較的良シ。室内溫度八十二度(七月二十五日午前九時) 病狀、被監置者ハ體格大、榮養良キ男子ニシテ、頭髮ヲ清理シ、初メ裸體ニテ室内ニ坐シ居リシモ、來意ヲ通ズルニ意ビ直ニ自ラ著衣セリ。對話ニ際シ切ニ町役場ノ處置ニ就テ不満ヲ述ブ。撮影ヲ交渉スルニ大ニ意ビ直ニ室外ニ出デタリ。日常ハ室内ニ在リテ觀書ヲナシ、然字ヲ帳面ニ拔キ書キス。觀察者ニ其書キ拔キ帳ノ一冊ヲ頒與セリ、之ヲ檢スルニ字體丁整鮮明ナリ。觀察者ハ之ヲ持テ歸レリ。 管理者ノ處置、町役場ハ被監置者ノ食料トシテ一日十四錢ヲ支給シ、又看護人ニ一日十五錢ヲ與フ。看護人ハ則チ患者ノ實母ニシテ六十七歳、監置室ノ前ノ借家ニ住シ、被監置者ノ子三人ヲ養フ。實母ノ看護ハ遺憾ナキモノ、如ク、毎日衣服ヲ洗濯シ、又衣服ノ破綻スルコトアラバ之ヲ縫フト稱スルハ事實ナルガ如シ。時々理髮シ、沐浴ニハ錢湯ニ進レ行クト云フ。 醫藥、醫治ハ病初ヨリ之ヲ受ケズ。警察官ノ觀察、監置室ガ市街ニ所在シ、且ツ警察署ニ近キ爲メ、警察官ノ觀察臨檢ハ頻同ナリ。

第三百例 〇〇縣〇〇市南〇〇町〇八〇番地。士族、戸主、電信工夫。船〇昌〇。慶應元年十一月十日生。 資産、無シ。 監護義務者、〇〇市長。 監置ノ時日、大正二年七月十九日。 監置ノ理由、家宅侵入。剃刀ヲ以テ妻ニ危害ヲ加ヘントセン爲メ診斷、早發性癡呆。 發病、明治四十二年七月五日。 遺傳記、不明。 既往證、初メハ所謂腦病ナリシガ、大正二年七月中ヨリ興奮甚クナリ、屢々他人ノ家宅ニ侵入シ、或ハ兇器ヲ以テ妻ヲ殺害セントスル等ノ危險性ヲ帯ビ來レリ。 監置室ノ場所、〇〇市ノ郊外〇〇村〇田ニ〇〇院ナル施設

(號四十六第)一其眞寫 例三百第



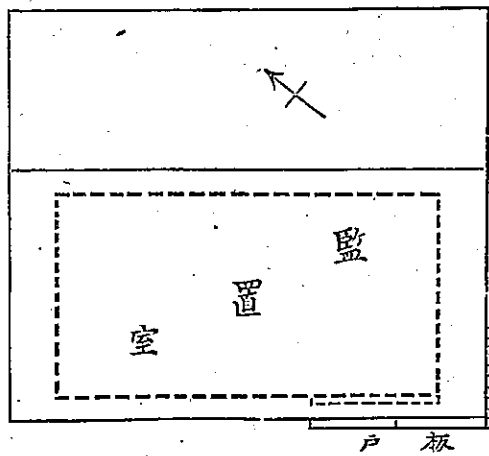
(號五十六第)二其眞寫 例三百第



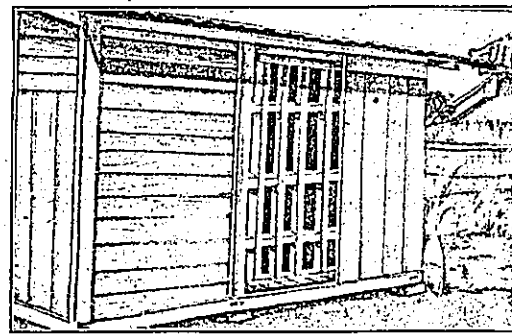
病院アリ。此構内ニ二棟ノ精神病者監置室アリテ、〇〇市長ノ保管ニ係ルモノトス。二棟共ニ略々同式ノ建築法ヲ用ヒ觀察時ノ二年前ニ之ヲ新築センモノナリト。 監置室、九尺四方ト九尺ニ一間トノ木造二棟ニテ何レモ高一間半・牀下一尺・瓦葺ナリ。觀察時ニハ精神病者ハ一名ナリシヲ以テ、一棟ハ倉庫ニ代用シ居レリ。觀察セシ被監置者ノ住スル室ハ四壁ヲ約八寸ノ厚板ニテ作り牀ヲ板敷トナス。出入口ハ前面ニアリテ三尺ニ五尺ナリ、之ニ錠ヲ卸ス。一方ニ幅約三尺・高サ約二尺ノ窓アリ、之ニ鐵棒(ボート)ヲ縦列シ中央ニ二寸幅ノ横木ヲ貫ク。採光換氣十分ナラズ、室内薄暗ク、臭氣ヲ放ツ。排便口ハ室ノ一隅ニアリテ牀ニ五寸ニ八寸ノ孔ヲ開ク。 病狀、被監置者ノ榮養ハ普通ナリ。

管理者ノ處置、被監置者ノ食料ハ一食八錢、一日三食(飯割四合強)二十四錢ヲ支給シ、看護人ノ日給ハ十五錢ナリ。副食物ニハ野菜ヲ與フルコト多ク、魚類ハ少シト云フ。 監置室内ニハ、寢具トシテハ蒲團ヲ使用シ、懸ケ蒲團ト敷蒲團トノ二枚アリテ、其上ニ更ニ炭簾ヲ重テタリ。被監置者ノ著衣ハ普通ナリキ。食器ハ木製ノ飯盒一箇・木椀二箇アリ、飯ト湯トヲ飲食スル用ニ供ス。沐浴ハ月二・三回之ヲ行ヒ、洗濯ハ時々之ヲナス。便所ハ毎日掃除スト稱スルモ、臭氣盛ナリ。 醫藥、同病院ノ醫員ヨリ治療ヲ受ケ、毎日服藥ヲナス。

(號十七第)圖附 例四百第



(號六十六第)眞寫 例四百第



警察官ノ視察、一箇月數回。

第四百四例

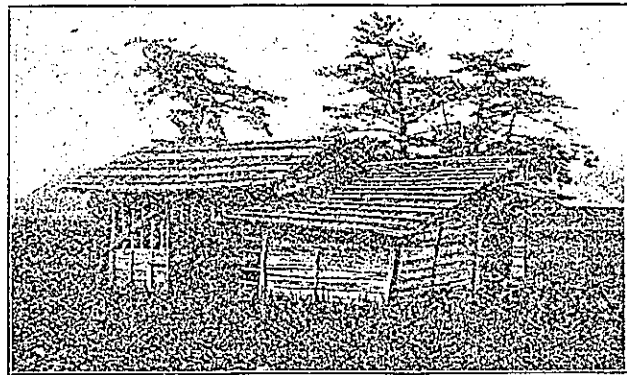
〇〇縣〇〇郡〇〇町。〇本〇吉。明治二十七年生。

資産、收入全クナク、町民ノ同情ニヨリ一日米四合ノ寄附ヲ受ケ、一家漸ク生活ス。 監護義務者、母、〇人。 監置ノ理由及ビ時日、明治四十四年四月町内ニ放火セルヨリ、町費ヲ以テ監置室ヲ建テ監置セルモノナリ。 監置室、方二間、亞鉛葺、板張リノ粗造ナル建物内ニ、長サ九尺、幅五尺ヲ三寸角材ニテ二寸ノ間隔ヲ置キ格子ヲ造リテ圍フ。地上ヨリ七寸ノ高サニ板張ノ牀アリ、一隅ニ高サ五尺、幅三尺ノ入口アリ。格子戸(同ジク三寸角材・二寸間隔)ヲ具フ。之ニ對スル外圍ヒノ一間ニハ二枚ノ板戸アリ。東南面南寄ノ上部ニハ窓ヲ開キ、以テ換氣、採光ノ用ニ供ス。建物ノ東北ノ一部、街道ニ面スル幅一間ニハ板戸張リテ監置室ト隔テ、被監置者ノ母、〇人ノ居室トナス。 病狀、被監置者ハ興奮性ノ癡愚ナルガ如シ。榮養狀態ハ甚シク不良ナラザルモ、顔面ハ蒼白ニシテ、著シク不潔ナリ。

第四百五例

〇〇縣〇〇市〇〇町〇〇五番地。農。中〇〇藏。弘化二年三月生。

(號七十六第)眞寫 例五百第



監護義務者、實子、中〇〇作。 生活程度、家族ハ被監置者ト實子トノ二人ノミナルモ、實子ハ上肢不具ノ爲メ自活ノ道ナク赤貧洗フガ如シ、故ニ〇〇市ヨリ救貧者トシテ一日二拾錢宛ヲ支給セララル他ニ、被監置者ノ手ニ成レル草鞋・草履ヲ賣リテ餬口ノ資ニ供セリ。 監置ノ時日、明治三十三年拾月拾八月。 監置經過、約十一箇年。 監置ノ理由、拾六年前外出徘徊シ、或ハ他家ノ耕作物ヲ盜ミ或ハ他人ニ暴行セシコトアリシ爲メナリ(實子ノ陳述)。 監置ノ場所、居室ハ二疊敷ノ居間ト半坪許リノ土間ノミヲ有スル所謂獨立小屋ニテ、監置室ハ之ニ建テ増シタル一幣屋ニ過ギズ。家ノ周圍ハ青田ヲ以テ圍繞セラル。 監置室、間口一間、奥行一間半ナルモ、高サ五尺ニ達セズ、牀ノ高サ一尺ニ足ラズ。四壁ハ極メテ粗末ナル丸太ヲ以テ繞ラシ、牀ハ素板ニシテ一枚ノ席アルノミ。便所ハ牀ノ一隅ニアル穿孔ヲ以テ之ニ充ツ。構造斯ノ如クナルガ故ニ、採光・換氣ハ不良ナラズト雖、四壁雨戸ノ設備ナキヲ以テ、風雨ヲ防グニ足ラズ。 病狀、視察ニ際シ被監置者ハ其居室ニ在リテ草鞋ヲ作り居タリ。其姓名ヲ問ヘバ「家康ナリ」ト言ヒ、年齡ヲ「拾歲ナリ」ト答フル如ク、彼ハ稍々高度ノ癡呆ニ陷レルガ如キモ、其作業ハ以テ生計ヲ助クルニ足ル。 家人ノ待遇、家固ヨリ貧ニシテ衣食足ラズト雖、實子ノ病父ニ對スル孝情ハ視察ノ瞬間ニモ猶ホ之ヲ察スルヲ得ベク、視察者ニ一種ノ快感ヲ與ヘ又同情ヲ喚起セシメタリ。被監置者ハ高齡ニシテ然モ平靜ニ起臥シ、屋外運動ヲ爲サズト雖、被服

居所ノ如キ比較的清潔ニ保タレ居ルヲ認メタリ。 醫藥、發病以來未ダ醫テ醫治ヲ受ケタルコトナシ。

上述ノ如ク被監置者ハ市ノ救貧者トシテ著名ナルモノナルガ故ニ、市ノ吏員就ニ警察官等ハ比較的好意ヲ以テ之ヲ遇セリ。視察者モ亦此不幸ナル父子ノ爲メニ小錢ヲ惠ミテ辭シ去レリ。

第三章 未監置精神病者ノ家庭ニ於ケル實況

第四百六例

〇〇縣〇〇郡〇〇町常〇町二〇番地。官吏。星〇重〇。天保十二年生。

資産、下等、低級官吏ナリ。 家人ノ待遇、家人ノ住居内ニテ六疊ト二疊トヲ當テガハレ居レドモ、疊ハ腐蝕ノ極ヲ盡シ、其他衣食モ十分ニハアラザルモノ、如シ。患者ノ子某、家ヲ繼ゲルモノナレドモ、溫情ノミヲ以テ父ヲ看護スルニハアラザルガ如シ。サレドモ別ニ一種ノ強迫的器具・手段ヲ以テ之ヲ拘束スルコトハナシ。 病氣經過、既ニ十二年間癡病セルモノトス。 醫藥、明治四十四年ニハ東京ノ某精神病院ニ入院セシコトアリ。

第四百七例

〇〇縣〇〇郡〇〇村〇〇七〇六番地。穀商。増〇三〇。二十一年生。

資産、上等。 病狀、癡愚患者ナリ。病初ニハ盛ニ被害妄想・追跡妄想アリシモ視察ノ當時ニハ薄ラギ居タリ。 家人ノ待遇、明治四十四年四月六日病院ヨリ歸リテ以來、家人ハ病者ノ自由ニ任シテ餘リ干涉セズ。患者ハ起居・食事等モ家人ト俱ニナス。然シ病氣ナレバト家人ヨリ特別ナル憐愛ヲ受クルコトハナク、弟・妹トハ爭論スルコト多キ方ナリ。 醫藥、嘗テ東京ノ某精神病院ニ二、三回入院セシコトアリ。迷信的手段ヲ用ヒテ患者ヲ處置シタルコトナシ。

第四百八例

〇〇縣〇〇郡〇〇山町五〇番地。石〇信〇。小學教員ノ弟。

病狀、躁鬱病ヨリ全治セシ患者ナリト云フ。 家人ノ待遇、其家兄ハ作樂療法ノ意味ニテ患者ヲシテ小間物店ヲ開カシメ、敢テ利益ヲ望ムズシテ業ニ從ハシム。又ソノ傍ラ、農業ノ手傳ヲモナサシム。家族ハ視察者ノ患者ニ遭フコトヲ好マズ、之ヲ謝絶セリ。

第四百九例

〇〇縣〇〇郡大〇町。大丁。田〇卓〇。二十七歲。

資産、下等。 病狀、白癡患者ニシテ自身ノ日常生活(衣食・兩便排泄等)モ辛ウジテ之ヲ爲シ得ル程度ナリ。 家人ノ待遇、家人ハ病者ノ爲ス儘ニ任シテ特別ニ手當ヲナスコトナシ。

第五百十例

〇〇縣〇〇郡〇〇町〇〇町。商。竹〇〇。四十五歲。

資産、中等。 既往證、結婚シテ子供迄儲ケシモ、離婚トナリテ弟ノ家ニ復歸セリ。 病狀、妄想性癡呆ナルガ如ク、被害妄想甚シク殊ニ妄想多ク

シテ間断ナク蛇ニ苦シメラル、ト云フ。妄覺ハ月經前ニ劇シク生ズ。家人ノ待遇、家人ハ全然之ヲ放任シテ仕事ヲ命ズルコトナケレドモ、患者ハ自ラ仕事ヲ手傳ハント云ヒテ、僅カナル仕事ヲナシテ大ニ役立ツコト、思ヒ居レバ、弟ノ嫁ナド、ハ甚シク不和ナリ。時々暴行ヲナスコトアリ。新藤・禁願（イ）所々ノ行者、先達等ニ見テ實ヒタレドモ、蛇ノ祟リハナシト云フ。（ロ）蛇ヲ體內ヨリ追ヒ出ダスタメニ、全身ニ灸治ヲナシタルコトアレバ、手掌・頸ナドニソノ瘡痕ヲ認ム。（ハ）行者某ノ該地方ニ來リシ時一意専心之ヲ信仰シテ、七日間毎日諸メ切りシト云フ。又（ニ）成田山・御嶽山・三ツ峯山等ノ神佛ヲ信仰シ、祈禱ヲ頼ミタレドモ、患者ハ却テ僧侶・行者等ニ咒ハルト云フ妄想ヲ起シタルコトアリト云フ。

第百十一例

〇〇縣〇〇郡〇〇町〇〇賀。練絲仲買商。根〇〇郎。四十四歳。資産、下等。診斷、癲癇性癡呆。既往證、十三歳ノ時二間半位ノ高處ヨリ落チタルコトアリ。青年時・壯年時ニハ劇烈ナル微毒及ビ淋病ニ罹リ、シカモ少シモ手當ヲナシタルコトナカリキ。明治四十三年秋ヨリ著明ナル健忘症アリ、癲癇性トナリ、自殺企圖アリ、不眠症ヲ生ゼリ（此ノ狀態大凡三箇月間續キタリ）。病狀、現在證トシテハ感情轉換性ニシテ健忘症著明ナリ。嗜眠症ヲ呈シ、言語蹉跎シ、瞳孔ノ對光反射缺如シ、膝蓋腱反射モ缺如ス。醫藥、病初ニ醫治ヲ受ケタルモ、醫師ハ重症ノ神經衰弱ト診斷シテ、家人ニ特別ノ注意モセズ、豫後ヲモ語ラズ、容易ニ治癒スルモノト思ヒタルモノ、如シ。家族、患者以外ノ家族トシテハ、患者ノ妻ト九歳及ビ七歳ナル幼兒トアルノミニテ、一家前途ノ方針ニツキテハ茫然トシテ適斷スル所ヲ知ラザルモノ、如シ。

第百十二例

〇〇縣〇〇郡〇〇村〇〇字大〇。戸主、農。兒〇寅〇。五十二歳。

同所。

兒〇五郎。二十一歳。

兒〇や〇。二十五歳。

第百十三例

同所。

兒〇や〇。二十五歳。

第百十四例 同所。

第百十二例乃至第百十四例ハ同一家族ナルヲ以テ一纏メニシテ之ヲ述ベシ。資産、中等。診斷、〇五郎及ビや〇ハ共ニ癲癇ナリ。既往證、戸主ニシテ父ナル寅〇ハモト被害妄想著明ナリキ。發病後〇五郎及ビや〇ニ子ヲ儲ケ。病狀、寅〇ハ目下日々農事ニ従事スレドモ、非常ナル大酒家ニシテ、平生ニテモ機會アラバ一升以上ヲ傾ク。村ノ集會等ニモ出テ、普通ノ人ノ如ク交際スレドモ、近隣ノ者ハ其ノ精神ニ稍々異ナル所アルヲ認ムト云フ（受持警察官及妻ノ陳述）。〇五郎、左利ナリ。上顎齒列ニ於テ第一四齒二枚ハ非常ニ長ク且ツ大ナリ、第二四齒ハ短クシテ遊離端尖銳ナリ。犬齒、左右トモニ嚙ロ白狀ニ近ク且ツ齒齦ノ外面ニ過剰ノ齒牙アリ。身體ノ發育及ビ骨格等佳良、強健。智識其他ヲ檢スルニ、五錢白銅ヲ一錢、二錢銅貨ヲ三錢ト答フ。白銅ト銅貨トヲ並べ置キ、何レカ一ツ好ム所ヲ取レト云ヘバ、白銅ヲ取ル。年齢ヲ問フニ「検査ガスタンダ」ト答フ。鼻眉ヲ知ルモ額ヲ知ラズ。家人ノ名ヲ知ル。家人ノ陳述ニヨレバ發病與習ヲ沈鬱抑鬱ト交互ニ發現スルモノ、如シ。や〇モ〇五郎ト殆ド同狀態ニ在リ、計算能力非常ニ乏シ。家人ノ待遇、一般ニ放任的ナリ。〇五郎ニハ家人強ヒテ勞働ノ手傳ヒヲナサシムレドモ、怠惰ニシテ役ニ立タズ。唯ダ米搗キノ

如キ仕事ハナシ得ト云フ。醫藥、寅〇ハ嘗テ精神病院ニ入院シ加療セシコトアリ。〇五郎及ビや〇ハ醫治ヲ受ケタルコトナシ。家族、此家族ニハ此他ニ猶ホ關子某アレドモ、氣質異常者ニシテ家内平和ナラズ、其妻ト共ニ別居セリ。

第百十五例

〇〇縣〇〇郡〇〇原村。醫師。塚〇〇次。三十歳。

資産、中等。診斷、癲癇性癡呆。既往證、十年前醫學士トシテ上京シ、勉學中、微毒ニ罹リシコトアリ。大正二年中ヨリ刺戟性トナリ、誇大的念慮アリ、相場ニ手ヲ出サントシ、又事業企圖アリタリ。其頃ヨリ言語蹉跎シ、歩行不確實トナリ、時々失禁アリタリ。大正三年二月頃ヨリ病勢増悪シ、家庭ニ在リテ亂暴シ、濫リニ庭園ノ樹木ヲ切り倒セリ。病狀、身體證狀トシテハ癲癇性癡呆ノ主徵候ヲ凡テ具ヘ、精神證狀ニハ輕度ノ誇大的念慮・事業企圖等アリ、癡呆ハ未ダ甚シク進マズ。感情轉換性ナリ。榮養中等度トス。家人ノ待遇、患者ハ醫家ニシテ衛生上ノ注意行届キ、居室・著衣清潔ナリ。患者ノ妻ト叔父トハ能ク看護ヲ致ス。醫藥、大正三年四月〇〇病院ニ入院シタルモ事情アリテ半月後退院セリ。爾來自宅ニ在リテ〇〇町ヨリ醫師某ヲ聘シテ診察ヲ受ケタルモ、醫師ハ精神病學上ノ智識ニ乏シク、唯往診ノ際患者ト談話ヲ交ヘ、家族ヲ慰藉スルニ過ギズト云フ。故ニ觀察者ハ處方ト看病ニ對スル注意トヲ與ヘタリ。

第四章 民間療方ノ實況

第一節 總 說

我邦ニ於テ古來精神病ハ一種ノ疾病ト看做サルト雖モ、其思想ノ背後ニハ宗教的觀念ノ潛匿スルヲ觀ルモノトス。中古以來、草子・物語ノ類ニ物氣（ものけ）ノ稱アリ、是レ多クハ皆精神病ノ謂ニシテ、神人ノ生靈・死靈・邪祟ニ因リテ生ズルモノト思惟セラレ、或ハ精神病ヲ以テ狐狸犬猿等ノ憑依ニ基クモノト迷信スルモノ亦鮮カラザリキ。之ヲ以テ之ガ療法モ醫師ノ手ニ委テラル、ヨリハ、寧・神官・僧侶ノ言ニ聽キ禁厭・誦經以テ之ガ祓禳ヲ謀リ、其間更ニ一種ノ水治方ヲ應用シ、以テ病者ノ平癒ヲ俟ツガ如キノ風習甚盛ナリキ、此ノ如キ因習ハ綿々トシテ絶エズ。精神病ニ對シ靈驗顯ラカナリト喧傳セラル、神社佛閣ニ參籠スル者今ニ至リテ尙頗ル多ク、今各府縣ノ神社ヲ通覽シテ其例ヲ覓ムレバ殆ド枚舉ニ遑アラザラントス。之ヲ各宗派ニ就テ觀察スレバ、此ノ如キハ一般ニ眞言宗・日蓮宗ニ最多ク行ハレ、神道之ニ次ギ、曹洞宗ニ於テモ猶、時ニ之ヲ見聞シ、唯眞宗ニ於テ殆ド其形跡ヲ認メザルモノ、如シ。是レ概テ教義ノ如何ニ起因スルモノトス。

次ニ參籠者ノ狀況ニ關シテソノ梗概ヲ述レバ、精神病者ハ家族又ハ關係者ニ引率セラレテ社寺ノ所在地ニ至リ、其附近ノ旅館ニ宿泊スル者モアレドモ、多クハ參籠所ニ起居スルモノトス。此參籠所モ精神病者ノミヲ收容スルモノモアリ、或ハ他種疾病患者ト共ニ合宿セシムルモノモアリテ一定ナラズ。其組織モ殆ド旅館ト異ラザルモノアリ。或ハ寺社内ニテ僕等ト與ニ寢食シ或ハ信徒ト共ニ雜居セシムルモノアリ、或ハ家族的待遇ヲ與フルモノアリ。僧侶・神官ノ病者ニ對スル治療方ヲ述ブレバ、一般ニ敢テ干涉的ニ之ヲ行フニアラズシテ、却ツテ放任主義ヲ取り、患者側ノ請託ニヨリテ初メテ加持禁厭ヲ行フモノ多キニ居ルモノ、如シ。然リト雖モ、僧侶・神官ガ自己ノ經驗又ハ信念ニ基キ、病者ヲ一室ニ集メテ祈禱・修法・説教・講話等ヲ爲スモノモアリ、或ハ稀ニ見ル所ナレドモ、多少ノ日課ヲ定メ、炊事・裁縫・掃除・風呂焚・採薪等ノ作業ヲ病者ニ課シ、作業療法ヲ試ムルガ如キ事實ヲ目睹スルコトアリ。又病者ノ參集スル社寺ニテハ殆ド常ニ水治方ノ行ハル、ヲ見ザルコトナク、之ガ方法トシテハ主トシテ冷水療方ヲ用ヒ、殊ニ飛瀑ニ頭部又ハ背部ヲ打タシムル方法最多ク行ハル。其他或ハ河川ニ沐浴シ、或ハ井水ヲ浴ビ、或ハ冷水浴ヲ取ラシム。温水療方ヲ用フル場合ハ少クシテ、其方法トシテハ頭部ニ溫湯ヲ灌グ等ノ種類アリ。凡テ是等ノ處置ノ行ハル、場所ヲ多クハ行場（瀧場）ト稱シ、又一面水治方ヲ施スト共ニ祈禱ヲ行ヒ、或ハ病者ヲシテ呪文ヲ稱セシムル如キコトアリ。今此ノ如キ行ノ濫觴ヲ尋ヌルニ、多クハ宗教的口碑ニ由ルモノニシテ、往昔何々大師・某上人ガナシタル同様ノ荒行ノ功德・法力ニ依リ爾來病氣ノ除瘴セザルコトナシナドト傳説セラル、モノトス。猶ホ瀧ニ浴スルニ當リテハ、合力又ハ附添人ト稱スル介輔者アリテ、靜穩ナル患者ニハ一名、興奮セル患者ニハ二名之ニ附添フヲ常トス。是等ノ荒行ヲ勤ムルニハ、豫メ醫師ノ診斷ヲ經ルベキヲ内規トスル社寺アレドモ、ソノ多クハ規定ヲ設ケズ、又假令之ヲ定ムルモ實際ニハ之ヲ行ハザルモノ少カラズ。次ニ病者ノ費用ニ就テ述ブレバ、自炊スル者ト參籠所・寺院等ニ滞在スル者トニヨリテ費用モ異リ、特別ニ修法等ヲ受クルモノハ食費ノ他ニ修法料ヲ徴セラル、等ノコトアリテ、一日平均數十錢ヨリ一圓餘ヲ要ス。又社寺ニヨリテハ仁恕ノ旨趣ヨリ金錢ヲ徴セザルモノモアレドモ、蓋シ稀有ニ屬ス。病者ノ滞在期ニ關シテハ夏期ニ多ク、冬期ニ少ク、其淹留期日ニハ別ニ一定ノ制限ヲ附セザレドモ、寺社側ヨリ施行スル祈禱等ノ期間ニ關シテハ二週間・三週間等ノ規定ヲ設クル

所モアリ。病者ノ數ハ一寺社ニ付キ平均一年間數名乃至數十名ナリ。

民間ニ於テ溫浴療方ヲ應用スルモノハ甚少數ニシテ、偶々山間ノ溫泉ニ於テ之ヲ行フニ過ギズ。

精神病ノ民間藥モ他ノ疾病ニ比シ甚少シ。蓋シ古來精神病ハ一般ニ不治ト信ゼラレ、神佛ノ加護ニヨルニアラザレバ治癒スベカラズ、到底醫師・藥石ノ力ノ及ブ所ニアラズト誤解セラレタルニヨルナラン。諸國古傳秘方ニハ「食事をたゞせて五六日もおけば、おほかた正氣になるものなり」「かまどのかけ土、いかにもふるき程よし。百草霜、各等分、水にてせんじ、其うはすみを飲ます可し」「人糞をひそかに黒燒酒にて用ふ」「懷中妙藥集ニハ「狂病度々おこり、水火を避ざるには、苦參を末にし、蜜にてねり豆程に丸じ、二十粒づつ、薄荷の煎湯にて用ひてよし」等記載シアリテ、精神病者ニ對スル格別ノ妙藥モ無カリシモノ、如シ。現今新聞紙上ニ於テモ精神病ニ對スル所謂特效藥ノ廣告セラルヲ殆ド見ルコトナク、偶々坊間ニ於テ精神病妙藥ナル商標ヲ掲グルヲ認ムルコトアルモ、他病ニ對スル賣藥ノ頗ル多種多數ナルニ比ブレバ、誠ニ少數ナリ。

最近ニ於ケル民間精神療方トシテハ何々精神學會或ハ心理學・催眠術・氣合術應用等ト稱シ、醫師ニアラザルモノニシテ、精神療方ヲ試ムルモノ處々ニアルヲ見聞ス。

被監置精神病者ガ監置セラル、前ニ、如何ナル處置ヲ以テ家族ヨリ遇セラル、カ、又未監置者ニ對スル家庭ノ處置ハ幾何ノ程度ナリヤ、其一斑ニ就テハ吾人既ニ之ヲ記セリ。

次ニ我が敎室ニ於テ調査セル民間療方ノ實況ニ就テ其二三ヲ記載シテ之ヲ報告セン。

第二節 神社佛閣ニ於ケル處置・水治方及ビ溫泉場ノ療法

(一) 高雄山藥王院 眞言宗（東京府南多摩郡淺川村宇小押田）。甲武線淺川驛ヨリ一里餘ニシテ高雄山麓ニ達ス。此處ニ瀑布アリテ古來精神病者ニ靈驗アリト稱セラレ、殊ニ約五十年前ヨリ病者ノ此地ニ群集スルモノ多キヲ致セリ。病者ハ多ク其近在ノモノニシテ、東京人之ニ次ギ、遠隔ノ地ヨリ來ルモノ亦稀ナラズ。病者ノ群集スルハ夏期ニ最多ク、其數五六十名乃至七八十名ニ及ビ精神病者ノ他ニ避暑・遊覽客・勉強ヲ目的トスル客等モ亦夥カラズト云フ。

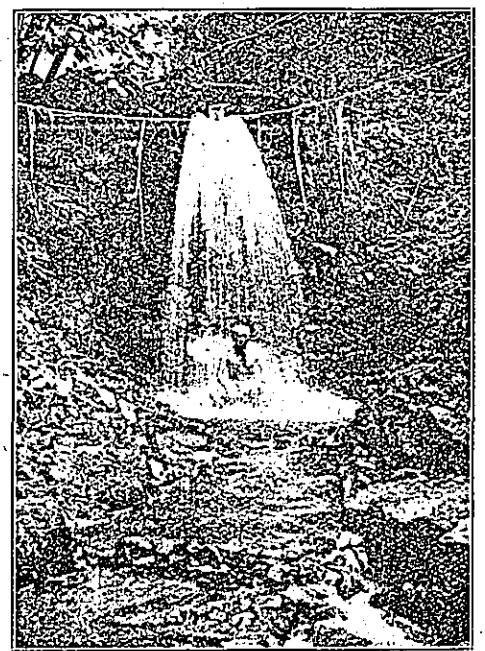
宿所、病者又ハ健康者ノ宿泊スル設備トシテ二個ノ參籠所ト三個ノ旅館トアリ。旅館、二軒茶屋及ビ三光莊ト稱スルモノアリ。二軒茶屋トハ同ジ所ニ二軒ノ旅館アル故ニ斯ク稱スルナリ。旅館ハ普通一般ノ旅館ト異ナラザル者ニシテ、二軒茶屋ニハ各五十人位。三光莊ニハ二十人位ヲ宿泊セシムル事ヲ得。一般ニ旅館ニハ與舊シタル精神病者ノ宿泊スルコトハ稀ニシテ、普通客ノ外ニハ輕症ナル精神病者又ハ脚氣ナドニ罹リタルモノ、靜養スルコト多シ。宿泊料ハ晝食共平均約一圓トス。參籠所、精神病者ノ殆ド凡テハ二個ノ參籠所ニ起居スルモノナリ。其一ハ琵琶ノ瀧ヨリ數間隔リタル所ニ在リ。參籠所ハ皆テ精神病者ノ爲メ放火セラレ烏有ニ歸シタルヲ以テ、信者ノ寄進ヲ募リ、漸ク數年前之ヲ再建セリ。此參籠所ハ粗末ナル板葺屋根ノ木造ニ階建ノ造構ニシテ、大凡ソ間日七間、奥行四間アリ、間口ノアル一面ニハ廊下アリテ、見晴ラシ宜キモ、他ノ三面ニハ全體ニ高サ一問ノ格子造リノ窓ヲ

(號八十六第)眞寫



瀧ノ琵琶

(號九十六第)眞寫

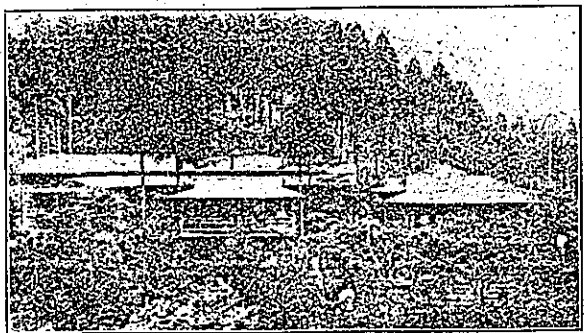


瀧ノ天辨

繞ラセリ。各格子ノ棒ハ約二寸角木材ヲ用ヒ、各棒ノ間隙ハ約五寸アリ。室ハ別々ニ之ヲ區劃シテ五十人以上ヲ收容スルコトヲ得ベク、大正五年十二月視察時ニハ三十五人滞在セリ。宿泊料ハ食料・寢具共ニテ一日三十八錢ニシテ食物ハ精進料理トシ、二軒茶屋ヨリ賄ハル。他ノ二ノ參籠所ハ蛇ノ瀧ヨリ數間離レタル所ニアリテ、間口二間、奥行四間程ニテ、約十人ヲ收容スルコトヲ得ベシ。前者ヨリハ小規模ノモノニシテ是レモ十年程ノ歲月ヲ經過シタル粗末ナル板葺屋根ノ平家建物ナリ。室ハ大ナル一廣間ヲ有スルノミニテ、別ニ之ニ小區劃ヲ施サズ。天井板ヲ張ラズ、梁材ハ露出ス。窓ヲ格子造リトセズ、普通ノ窓トナス。宿泊料ハ前記ノ參籠所ニ於ケルト同様ナリ。視察時ニハ精神病者三名參籠セリ。參籠所ニ宿泊スル病者ニハ家人附キ添ヒテ來リ、治療ノ目的ニテ瀧ニ浴スル際ニハ合力ナルモノアリテ瀧浴者ヲ介助スルモノトス。サレバ次ニ瀧ト合力

トニ就キ説明セン。瀧、琵琶ノ瀧蛇ノ瀧天ノ瀧三瀧アリテ、共ニ別々ノ場所ニアリ。琵琶ノ瀧ト蛇ノ瀧トノ間隔ハ二十町程アリ。琵琶ノ瀧ニハ精神病者ノ瀧浴スルコト最多ク、瀧ハ高サ三丈、幅一問程アリ、瀧壺ハ二坪平方ノ廣サニテ、坐シテ漸ク腰ヲ沒スル程度ノ深サナリ。瀧ハ巖石ヲ自然ニ傳ハリテ降下スルガ故ニ水勢モ自ラ緩慢ナリ。蛇ノ瀧ハ高サ一丈五尺、幅二尺程アリ、巖壁ヲ傳ハラズ直下スルガ故ニ水勢頗ル強シ。天ノ瀧ハ初メ人工的ニ蛇ノ瀧ヨリ水流ヲ三光莊ノ前マデ導キシモノナリシモ現今ニテハ既ニ自然ノ瀧ニ化シ高サ一問半、幅四尺程アリ。多クハ神經衰弱者・輕症精神病者ニ應用セラル。合力、合力ハ平素參籠所内ニ居リテ、患者ノ瀧浴ニ當リテ之ヲ輔佐ス。當山附近ノ農民ガ之ヲ副業トスルモノ多シ。又此合力ヲ監督スルモノモアリ。合力ノ日給ハ六十錢ナリ。琵琶ノ瀧ノ參籠所ニハ合力居レドモ、蛇ノ瀧及ビ天ノ瀧ノ參籠所ニハ居ラズ。是レ蛇ノ瀧ハ水勢猛烈ニシテ精神病者ノ之ニ瀧浴スルモノ甚稀ナルヲ以テ又辨天ノ瀧ハ輕症者ノ集合地ナルヲ以テ合力ノ常住ノ必用ナキガ爲ナリ。瀧浴ノ方法、瀑布ニ病者ヲ浴セシムルニハ瀑布ノ側ナル休憩小屋ニ至リ此處ニテ脱衣セシメ、裸體タラシムルカ或ハ水衣ヲ著セシメテ瀧ニ打タレシムルナリ。一名ノ病者ニ對シ大概一名ノ合力ニテ用ヲ辨ズルニ足レリ。病者瀧浴ヲ背セザル時ハ強カラテ之ヲ瀑下ニ押シ遣ルコトモアリ。家人ハ瀧壺ノ傍ニアリテ信仰心アルモノハ體經シテ平癒ヲ祈ルナリ。山僧ノ此所ニ來リテ讀經スルコトハ稀ナリト云フ。瀧ニ浴スル回数ハ一日ノ中多キハ十回以上、少キモ三回下ルコト稀ナリ。一同ノ持續時間ハ約五分乃至十分ナルコト最多ケレドモ二十分以上モ浴セシムルコトアリ。瀧浴ノ時期、毎年四月一日ヨリ十月三十一日迄ト定メアレドモ、實際ニハ嚴冬ニモ浴スルモノアリ。瀧ニ浴セシムル勞ラ家人ハ山上ノ本堂ニ至リテ病者ノ爲ニ祈禱・禁服等ヲ請ヒ、或ハ呪符ヲ受クルモノアリ。瀧ノ效果、瀧ノ精神病ニ及ボス影響ハ稀ニ良好ナルコトアリト雖、之ヲ一般ヨリ云ヘバ不真ナリ。大正五年中參籠者ニシテ死亡セシモノ八人アリタリト云フ。

(號十七第)眞寫



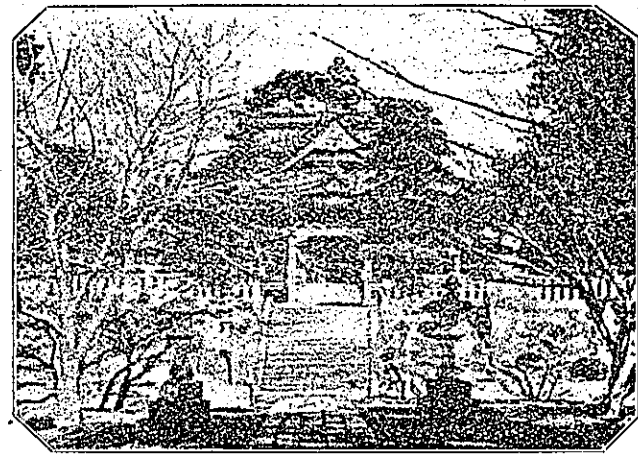
景光ノ近附瀧ノ天辨

病者ノ滞在期間ハ平均三、四十日ナルモ、長キハ二、三年ニ及ブモノモアリ。寺ノ内規トシテハ豫メ醫師ヨリ瀧浴シテ差支ヘナシトノ診斷ヲ受ケテ來レルモノ、ミヲ瀧浴セシムト稱スルモノ、實際ニ於テハ、最初ヨリ醫師ノ診斷ヲ受ケズ直接此地ニ來ルモノモ甚多キモノ、如シ。又醫療ヲ試ミタルモ效驗ナキノ故ヲ以テ來山スルモノモアリト云フ。(醫學博士石川貞吉及ビ中村忠次郎報告ニヨル)

(二)正中山法華經寺 日蓮宗千葉縣東葛飾郡中山村大字中山。日蓮宗大本山ノ一トス。開基ハ北條ノ臣宮木胤繼ナリ。文應元年日蓮ハ松葉ヶ谷ノ法華後、下總若宮ノ宮木ニ依ル、乃チ氏ハ若宮ノ館ニ法華堂ヲ建テ、日蓮二百日百座ノ說法ヲ請ヘリ。即、法華經寺ハ日蓮最初ノ轉法輪ノ地トス。胤繼ハ

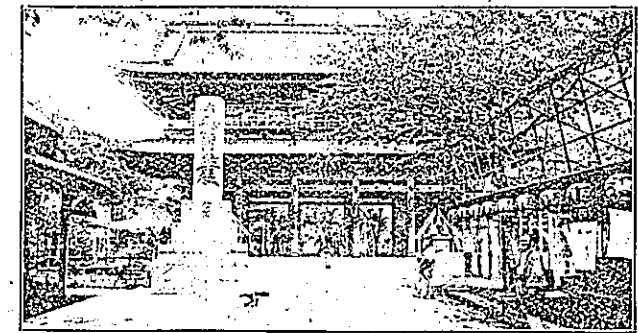
建治二年ニ遷徙シテ第一日常トナレリ。サレバ同寺ニハ觀心本尊ヲ始メ日蓮在世ノ肉筆・文書・遺物等今ニ猶多ク傳ヘラル。同寺ハ爾後盛衰アリタルモ、第十二代日現ニ至リ徳川家康ノ歸依ニヨリ中興セリ、現董ハ第百十八代喜多村日修ニシテ、末寺三百餘ヲ有ス。同寺ニ於ケル祈禱・修法ハ日蓮之ヲ日常ニ傳ヘ、爾後相傳シテ今ニ逮ビ、古來信仰者ノ參籠スル者常ニ絶エズ、精神病者ノ來ルモノモ亦夥カラズ、目下病者ノ祈禱ヲ受クル場所タル鬼子母神剎堂ハ徳川家光カ鎌倉ヨリ移セシモノニ係ル、現今同寺ニテ行ハル、處置トシテハ、信者又ハ病者ハ參籠所或ハ修法所ニ宿泊シ、祈禱・水治・修法等ヲ受クルモノトス。次ニ少シク之ヲ細記セン。

(號一十七第)眞 寫



堂 剎 神 母 子 鬼

(號二十七第)眞 寫



門 山 寺 經 華 法 山 中 正

寺附屬ノ附添人モ居ルナリ。賄料ハ一日四十錢、其他室代トシテ一日四錢ヲ徴セラル。食物ハ精進料理トス。監督ハ剎堂管理人之ニ任ジ、寺内各院ノ住職ガ一箇月交代ヲ以テ輪番ヲ爲ス。參籠者 觀察時ニ於ケル參籠者ハ東京千葉茨城群馬靜岡・栃木ノ各地方ヨリ參集セシモノニシテ總計二十五名ヲ算シ其内十四名(男九女五)ハ精神病者、九名ハ附添ノ家人ナリキ。病者ノ年齡ハ十八歳ヨリ六十六歳マデノ間ニアリ。此他寺内ノ淨光院・安西院・蓮院・木行坊・木妙坊ニモ一名乃至二名ノ精神病者宿泊セリ。祈禱ハ祖師堂(徳藏殿)ノ後丘ニアリ剎堂ニテ行ハル、モノニシテ參籠所ヨリ堂ニ廊下傳ヒニテ通フヲ得。參籠者ハ鬼子母神ヲ祀レル壇前五十五疊許リノ廣間ニ坐シ、合掌シテ太鼓ニ合セテ大聲ヲ上ケ南無妙法蓮華經ヲ唱フルモノトス。大太鼓

二個備ヘラレ二名ノ參籠者之ヲ叩キ。僧侶ハ傍ニ在リテ一同ヲ監督ス。二十分間題目ヲ唱ヘタル後三十分間休憩シ、食事ノ後一時間休憩ス。カクテ朝五時ヨリ晚九時マデ勤行ス。觀察時ハ折ヨク祈禱ノ時間ニ當リ、精神病者モ他ノ健康者又ハ他ノ病者ト同シク合掌シテ熱心ニ題目ヲ唱ヘ居タリ。早發性癡呆ノ癡呆狀態ニ陥リ居ルモノト思ハル、四名ハ不行儀ニシテ、左隅右顧シ、題目モ唱ヘズ、空笑・聲屑シ、作嘔等ヲ示セリ。躁病ト思ハル、二十二歳ノ女ハ一心不亂ニ題目ヲ唱ヘ行クマ、ニ、合掌シタル手ヲ身體ト與ニ左右ニ動搖スルコト盛ナリキ。四十四五歳ノ癡癡性癡呆ラシキ男ハ、神前ニ坐ハリ居ルモ、衣服ヲ濡ロケ、胸腹ヲ露ハシ、堂外ノ空ヲ眺メ、隣ノ邊リヲ叩キ、作嘔・空笑セルハ特ニ人目ヲ惹ケリ。修法ハ寺内ノ院坊ニ於テモ行ハル、觀察セシ淨光院ハ四室ヲ有スル小院ニシテ奥ノ六疊ノ二間ヲ宿泊ニ供ス、修法料ハ一週間四圓ナリ。水治ハ井ノ傍ニテ頭部ヨリ井水ヲ浴ビルモノトス、一日一回行フヲ普通トスト云フ。瀑布ハ寺内ニ存在セザルヲ以テ灌漑ハ之ヲ行ハズ。寺僧ノ語ル所ニヨレバ是等諸方法ニヨリ治癒スルモノハ十分ノ七ニシテ十分ノ三ハ不治ナリト云ヒ、不詳ナル出來事ハ營テコレ無カリシトイフ。或ル者ノ言ニヨレバ參籠所ヨリ逃走スル精神病者ハ其數尠カラズト云フ。

醫藥 參籠所ノ囑託醫ハ〇〇〇〇ニシテ時々診察ニ來タルト云フ。參籠者ハ特別ノ疾病ニ非ル限り平生服藥セズ。病院 同寺ニ來ル處置ノミニテハ醫師法ニ違反スル所アルヲ以テ明治四十二年告蘇千葉縣知事ノ德意ニ基キ、本山側ト信徒側ト協議シ會員組織ヲ以テ二萬三千圓ヲ投シ山中療養院ヲ剎堂ノ背後ノ丘ニ建設シ、明治四十三年二月起工シ大正六年五月落成セリ。洋式二階建木造ニシテ平面圖ハ山形ヲ示シ、間口十六間・奥行七間・室ハ二間ノ廊下ヲ以テ左右ニ之ヲ隔ツ。院長室・醫員室・藥局・事務室・内科室・外科室・外來患者控室・應接室・研究室・看護人室・看護婦室・當直室等アリ、病室ニハ主トシテ階上ヲ充テ、階上ノ一端ハ修法所ニ充ツル廣間トス。此本館ノ後ニ浴室・水治室・炊事場アリ。加持・祈禱ニヨル精神療法ト醫學的療法トヲ並用シテ病者特ニ精神病者ノ治療ヲ試ムヲ以テ目的ト爲シ、近ク開院ノ運ビニ至ルト云フ。

(三) 原木山妙行寺

日蓮宗千葉縣東葛飾郡行徳町大字原木。本寺ハ永錄年中、日蓮ノ開基トス。寛政年間、日蓮再興シ。明治ニ入りテハ前往職石井日淳ノ修理ニヨリテ現在ノ建物トナル。明治二十年頃ヨリ精神病者ノ參籠スルモノ多シ。現董ハ石井日晃ナリ。街道ニ沿ヒタル山門ヲ入レバ正面ニ祖師堂アリ。左ニ參籠所、右ニ修法所アリ。參籠所 二棟ノ參籠所ハ前後ニ併立シ、前棟ハ男子ヲ收容シ、長サ十間・幅四間ヲ有スル木造平家トス。四十疊ヲ一列ニ四室ニ劃チ。室ニ沿フテ一間ノ廊下アリ。女棟ハ其後ニ在リテ間口七間・奥行三間・二室ニテ二十疊ヲ數ク。賄料ハ寢具等一切ニテ一日二十八錢ナリ。參籠者ハ多キ時ハ五六十名モ滞在シ、精神病者ハ平均一日三四名ノ割合ナリ。病者一名ニツキ一二名ノ家族附添フ。觀察時ニハ去ル十月一日夜半ニ起リシ大暴雨ノ被害ノ爲メ參籠者ハ殆ト歸宅シ、唯一名ノ精神病者ノミ滞在スルニ過ギザリキ。參籠者ノ日課 ハ午前四時ニ起リ、六時半迄題目ヲ稱ヘ、七時朝食ヲ喫シ、七時半迄境内ノ掃除ヲ行フ。境内ハ中山ニ比スレバ遙ニ狹隘ナリ。其後又題目ヲ唱ヘ、十時ヨリ十二時マデハ修法所ニ集マリテ經文ノ講義、忠孝ノ講話ヲ聽ク。此時ニモ修法ヲ行フモノトス。晝食後午前同シク題目ヲ稱ヘ、二時ヨリ四時マデ再ビ修法・講話行ハル。四時半ヨリ境内ノ夕掃除ヲナシ、コレニテ日課ヲ終ヘ、六時夕食ヲ攝ル。題目ハ三十分毎ノ休憩ヲ交ヘツ、續行スルハ中山ト同様ナリ。毎食後ニハ三十分ノ休

懃アリ。修法、視察時ニハ日淳氏が修法ヲ行ヒ居ル時ナリキ。座敷ハ五十疊敷許リニテ矩形ヲ爲シ。一端ニ鬼子母神ヲ祀レル壇アリ。日淳氏ハ壇前ニ七十一歳ノ老體ニ緋ノ袈裟ヲ懸ケテ端坐シ、之ニ對シテ三十二人ノ男女坐セリ、(女二十人、男十二人ニシテ病者・附添人・外來者・參籠者等ノ凡テヲ含ム)。此修法時間ニ施法セラルベキ病者十名ハ二列トナリテ修法者ノ直前ニ合掌シテ坐リ、施法セラレザル他ノ者ハ一問許リノ間隔ヲ保チテ其後ニ坐ス。二十歳許リノ精神病者ハ庭ヲ長クシ修法ヲ受ケザル後組ノ一端ニ俯キ居タリ。此時修法ヲ受ケ居タル者ハ四十歳許リノ女ニテ側腹ニ疼痛アルソノ病微トセリ。修法者ハ手ニ一種ノ柄ノ上ニ珠數ヲ添ヘタルモノヲ拂フ、之ハ強音ヲ發セシメ得ル裝置ニナリ居ルモノトス。是ニ於テカ修法者ハ柝ヲ鳴ラシテ、何年前カラ人間ノ體ニ入リテ苦シメルノカト詰問セリ、耳朶ヲ劈ク鋭響ハ靜寂ノ室内ニ湧エテ、二三ノ病者ハ身震ヒスル程ナリキ。女ハ「二十三年前カラ」ト答ヘタリ、其他二三問答ノ済ミタル後、明日マデニ病氣ハ癒ルトト宣言セリ。是レ此問ノ所謂修法ナリ。

收容方、同寺ニテハ祈禱・修法ニヨリテ三週間後ニ平癒セザル者ハ一旦歸宅セシメ。又希望ニヨリテ更ニ入所セシムル方法ヲ採リ居ルト云ヒ。又修法後一週間以內ニ略ク豫後ノ良否ヲ推定シ得ト云フ。參籠所ニハ講中ノ紹介狀ヲ有スルモノ、ミテ收容スルナリ。

之ヲ要スルニ中山及ビ原本ノ二寺ニ於ケル精神病者ニ對スル處置ハ、主トシテ宗教的精神療法ニシテ修法ハ病氣ヲ以テ附憑・邪祟ト爲シ、催眠術ニ類スル方法ヲ用ヒテ治療ヲ試ミントスルモノニシテ、收容方ハ開放的制度ヲ採用ス。此他中山ハ水治方ヲ用ヒ、原本ハ多少ノ作業ヲ課ス。中山ニテハ參籠所・修法所等ガ廣濶ナル境内ニ點々トシテ散在スルハ一種ノ分棟式病室ニモ擬スベキモノニテ、中山ニテモ原本ニテモ多少家族の看護ノ面影ヲ認ムルモノトス。唯毎日ノ勤行ガ餘リ長時間ニ互ルハ一般ニ精神病者ニ對シ興奮・疲勞ノ度ヲ増ス虞アリ、改良ノ餘地ノ大ニ存スルヲ認ム。中山ニ見タル如キ開放の療養所ハ其監督宜敷ヲ得、且、宗教的精神療法ト藥理療法トガ能ク調和ヲ保ツニ於テハ環境ノ靜寂・幽遠ト相俟ツテ一種ノ新シキ試ミナリト思料ス。(以上二項)

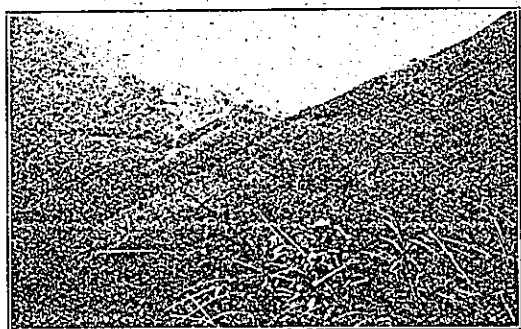
大正六年十月醫學博士三宅鐵一(視察報告)

(四) 穗積神社

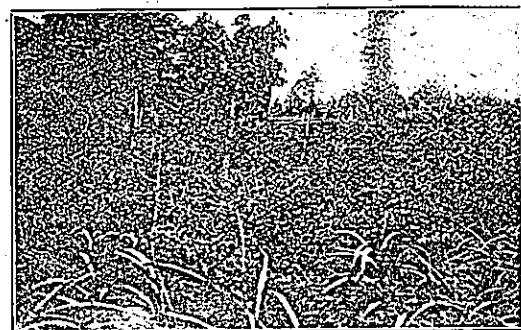
四）穗積神社 郷社（静岡縣庵原郡西本村平山）ハ龍爪山ニアリ。祠ハ往古同山ノ微雨掬龜石ニ在リシガ、慶長十二年一月十七日當時ノ神主瀧權兵衛（現社司ノ祖先）之ヲ現在ノ地ニ移シ、之ヲ再興シタリ。祭神ハ大己貴少彥名ノ二神ニシテ古來靈驗著シト稱セラレ、何時ノ頃ヨリカ精神病者ノ治ヲ禱ルモノ多ク來集スルニ至レリ。龍爪山ハ静岡市ノ北方三里ニ位シ、庵原安倍ノ兩郡ニ跨リテ海拔七千尺アリ。上リ二里ノ峻嶒ヲ經テ漸ク絶頂ニ達スルコトヲ得。旅客者シ静岡市近傍ニ於テ車窓ヨリ北方ヲ仰ゲハ巖嶽タル一岳ノ中空ニ聲ハ、其山嶺ニ杉森ノ規則正シク整列スルヲ見シ。是レ即チ龍爪山ナリ。山頂ハ二段餘ノ平地ニシテ南方遙カニ駿河灣ヲ瞰下シ、東西北ノ三方ハ深森又ハ丘陵コレヲ圍ミタリ。其奥深キ所ニ郷社穗積神社（三間四方）アリ、更ニ此本殿ヨリ四丁ノ上方ニ奥ノ院アリ。本社ノ前庭ニハ方二間ヲ劉シテ七五三繩ヲ張り、其中央ニハ升炊キノ釜ヲ備ヘテ祈禱ノ用ニ供ス。神殿ニ對シテ二棟ノ獨立家屋アリ（寫眞參照）是レ精神病者ヲ收容スル所ナリ。當社ノ沿革ヲ教導職細澤雄八（明治四十四年ニ七十一歲）ニ就キテ尋ヌルニ、既ニ七八百年ヲ經タリト云フ。徳川時代ニハ初代神官瀧大和ガ之ヲ司リ、二代瀧長門・三代瀧寛七ヲ經テ現職瀧藤太郎ニ及ブ。參詣者ハ毎年二月及ビ八月頃ニ最も

參籠者ハ毎年二三月及ビ八月頃ニ最モ

第百五十例 其一 寫眞 (第七十三號)
龍 爪 山



二 其 上 同
(號 四 十 七 第) 真 寫



多ク集マリ、時トシテハ一日二十人ヲ超過スルコトアレ
ドモ一日ノ平均約二人ナリ。參籠スルモノ、多クハ精神
病者ナリ。室料及ビ祈禱料トシテ一人ニツキ一日三四十
錢ヲ徴收セラル。

錢ヲ徵收セラル。

治療方、治療方トシテハ神官ハ毎日朝夕二回、神前ニ病者ヲ伴ヒ、祈禱スルヲ例トナス。其他一回宛、前記ノ釜ニ湯ヲ沸カシ温湯ヲ患者ノ頭部ヨリ灌注ス、之ヲ湯祈禱ト稱ス。躁暴ナル病者ハ或ハ之ヲ縛シ或ハ之ニ手錠ヲ施シ或ハ之ヲ收容スルタメノ設備アリ。明治四十三年四月ヨリ視察時ニ至ル約一箇年半ノ間ニ細澤敬尊職ノ祈禱ヲ受ケタルモノ八十四名ニ達シ、其多クハ三十歳前後ノ男子ナリト云フ。豫後ハ全治又ハ輕快シテ歸宅スルモノ、

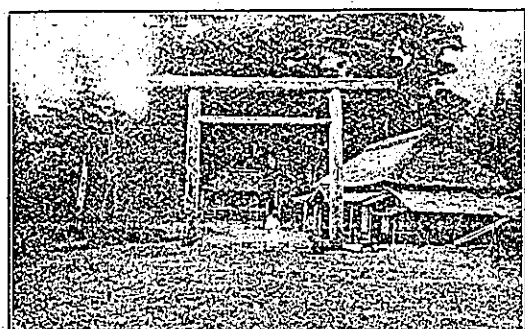
他ニ合併症ノ爲メ斃ル、モノモアレドモ、自殺者ハ嘗テ有リタルコトナシト云フ。

收容室、第一棟ハ本社ト

有リタルコトナシト云フ。

收容室、第一棟八本社上

同 上 其 三 寫 眞 (第七十五號)
穗 積 神 社



四 其 上 同
(號 六 十 七 第) 眞 寫



ヲ備へ。牀上ニハ不潔ナル薄墊ヲ敷ク。他ノ一室モ其構造前若ト同様ナレドモ。中央ニ爐アラズ、且ツ其一隅ニハ廣サ約一坪・高サ約一間ノ壁置室アリ。其ノ構造ハ約三寸ノ間隔ニ徑三寸ノ角材ヲ縱櫺ニ繞ラシ、牀ハ板ヲ以

九七

セテ之ヲナサシメ居レリ。

A black and white photograph of a long, single-story wooden building, likely a barn or workshop, with a gabled roof and several doors. It is surrounded by trees and a grassy field.

棟二第

力

力

力

合

前庭

下

板柵木
間木監
柵置

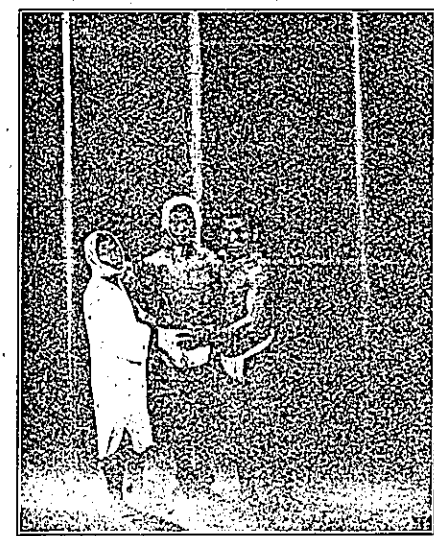
投ケツケ頭部ヲ傷ツケ直ニ悔イテ自首シタルコトアリ。爾來病勢漸次ニ進ミ

第百十六例 ○○縣○○郡○○見村字○松。農。井○幸。○二十八歲。

九六

飛下ス、之ヲ不動ノ瀧ト稱ス。瀧ハ何レモ高サ約三間、幅二、三寸アリ。ソノ水ハ寺後ナル經ヶ峯ノ頂嶺ナル圓池、金池ヨリ發シテ、ソノ水勢甚強シ。
瀧ノ方法、瀧ニ際シテハ、附添ヒ來レル家族ハ宿屋ノ合カノカラ糖リテ病者ヲ瀧場ヘ導キ、與蓄セルモノハ手足ヲ縛シテ、運搬シ、拒絶、反抗スル者ハ強力ヲ以テ瀑下ニ押シタルナリ。患者ノ頭部ハ手拭ニテ之ヲ被ヘドモ、直接頭部ヨリ強キ水勢ニ懸ラシムルナリ。精神病者モ亦少クモ一日三四回沐浴シ、一回ノ持續時間ハ平均五分乃至十分ナリ。男子ハ裸ヲ帶ブル以外ハ全ク裸體ナレドモ、女子ハ水衣ヲ著ス。
一般ニ瀧ニ浴スルモノハ其回数ノ頻數ナルヲ以テ效果アルモノト信ジ、日ニ數回、少クモ二三回沐浴シ。又多數ノ人ガ駢列シテ數條ノ瀧ニ浴スルガ故ニ、一回ノ持續時間モナルベク之ヲ長クスルヲ以テ相ヒ誇ルガ如シ。此ノ如キハ屢ヒ他ニテモ見聞スルコトナレドモ誤解ノ甚シキモノナレバ、觀察者ハ之ニ關シ注意ヲ與ヘタリ。同寺ノ住職ノ言ニ依レバ、同寺ニテハ強ヒテ精神病者ニ瀧ヲ勸メタルニハアラズ、唯患者ノ自由ニ任セ置クナリト云フ。瀧ニ浴スル精神病者ハ夏季ニ最多ク、冬季ニモ猶少數ノ沐浴スルモノアリト云フ。
瀧ノ效果ハ概シテ不良ナリ。之ガ爲ニ却ツテ病勢ノ増悪スルモノ多ク、大正三年七月二十四日樫田ガ觀察セシ時ノ例ハ皆不良ノ結果ヲ見タリ。次ニ其例ヲ舉ゲン。

第百十七例 ○○縣○○郡○○村。農。向○文○。十八歲。



(圖十八第) 眞寫 例七十百第



(號一十八第) 眞寫 例八十百第

破瓜病ニテ智力減退、言語錯亂、興奮アリ。右耳鼓ハ畸型ヲ呈ス。父之ニ附キ添ヒテ旅館ニ宿泊シ居タリ。患者ハ興奮シタルニヨリ、合力二人ニテ之ヲ抱キ上ゲ、手拭ヲ以テ兩上肢ヲ後ロ手ニ縛リ、兩脚モ手拭ニテ緊ギテ瀧場ヘ連レ行キ、患者ノ意ノ進マヌニモ拘ラズ、強ヒテ頭部ヨリ瀧ニ浴セシメ、約五分ノ後歸宿セルガ、患者ハ忽チ頭痛、耳痛ヲ告

第百十八例 ○○縣○○郡○○町。農。大○○。二十二歲。

大正三年四月十七日第二回分娩ヲナシ、出産ハ尋常ナリシガ、出産後疲勞恢復セズ、七月十七日ヨリ不可解ノ言語ヲ發シ、胸中苦悶モアリタリ。當時家人ハ患者ノ心臓部及ビ頭部ニ冰囊ヲ當ツル等ノ處置ヲナセシガ、病態ノ輕快セザルニヨリ、同年七月二十四日夫ト親戚者ト二人附キ添ヒテ大岩山ニ至リ投宿セリ。到着後直ニ旅ノ恢復ヲモ俟タズシテ、夫ト合力ト附キ添ヒテ瀧場ヘ連レ行キ、頭部ニ手拭ヲ緊ギ、腰卷ヲ著セシメ、頭部ニハ瀧水セズシテ唯背部ノミヲ瀧ニ浴セシムコト僅カニ三分ニテ歸宿シケルガ、四肢冷却シ、輕キ譫妄狀態ニ陥レリ。觀察者ノ應急處置ニヨリ翌朝稍ハ恢復シ、夫ハ觀察者ノ入院勸告ヲ容レテ妻ヲ拉シテ○○病院ニ赴キタリ。十日後觀察者ガ同病院ニ○○博士ヲ訪ヒ病室ヲ參觀シタル時、再び同患者ニ面會スル機會ヲ得タルガ、既ニ殆ド治癒シ、疲憊性精神病ナルコト明ラカナリキ。

第百十九例 ○○縣○○郡○○村。旅館ノ主人。上○太○。五十四歲。

瀧ノ目的トシテ○○縣ヨリ來リ七月二十三日不動瀧ニ浴セシガ、却ツテ心身ノ不調ヲ感ジ、翌朝歸國ヲ思ヒ立チ。同山ニテ知己トナレル者ト與ニ約ニ里ヲ隔ル大岩口停車場ニ向テ俾ニテ赴ク途中、興奮シテ暴行ニ及バントシ。車夫ニ乘車ヲ謝絶セラレ。徒歩ニテ同停車場前ノ茶屋ニ至リ。休憩中、人ノ隙ヲ窺ヒ、臺所ヨリ出刃庖丁ヲ取り出し、咽喉部ヲ突キシガ、直ニ發見セラレ。醫師ノ應急處置ヲ受ケ。同日午後急電ニ接シタル家人ニ引キ渡サレタリ。
(大正三年七月樫田五郎觀察報告)

(六) 定義溫泉 (宮城縣宮城郡大澤村大倉) 此溫泉ハ一名大倉溫泉トモ稱シ、仙臺市ヨリ山路七里ニシテ達ス。其道程ノ半ハ人力車ノ便アリ。白龍山麓ノ岩ヲ削リ、約九尺四方ノ浴槽ヲ造リ、底岩ノ割レ目ヨリ湧出スル溫泉ヲ利用シタルモノトス。場ノ監督ハ石垣長左衛門一家之ニ當リ旅館ヲ經營ス。溫泉ノ所在地ハ一里ヲ距ル定義村マテ人家無ク閑寂・幽邃ニシテ靜養ニ適ス。溫泉ノ自然溫度攝氏三十七度即チ專門家ガ持續溫度療方ニ最適當トスル溫度ニ全ク一致スルハ奇ナリ。此溫泉ガ精神病者ニ奏效アルコトハ既ニ五十年前ヨリ認メラレ、現今ニテハ此地方ニ普ク知ラレ、近縣ノ精神病者モ此所ニ來集ス。觀察時ニハ麻痺性癱瘓ニ・躁狀態ニ・早發性癱瘓六・神經衰弱三・抑鬱狀態ニ・白癡一・胃腸患者三人ヲ見タリ。是等ノ精神病者ニハ大抵二三人ノ家族ガ附添ヒ來リ居テ、ソレ等ノ男女ガ病者トモニ入浴ヲナスノ狀ハ甚ダ奇觀ナリ。營テ中村(古峽)文學士ハ仙臺北溫泉遊記ニ於テ「定義ノ癲狂村」ト題シテ此地ヲ紹介セリ。此溫泉ハ實驗上永ク入浴セザレバ奏效セズト言ヒ傳ヘラレ、短カクモ二三時間、長キ時ハ終日、終夜入浴ス。コレモ亦現今ノ治療學說ト一致スル現象ナリ。斯ク大多數ニテ入浴スルヲ以テ、患者モ興味ヲ有スルモノ、如ク、決シテ浴槽ヲ出デントセズ、却テ癖色アリ。偶々出デントスル際ニハ、共ニ浴スル家人ガ之ヲ制止スルモ別ニ暴行スル如キコトナシ。附添人モ共ニ湯槽中ニ居ルコト、浴槽ノ非常ニ廣キコト、ハ患者ニ安心ト興味トヲ與フルモノ、如ク、入浴ヲ厭フ患者ハ之ヲ一人モ認メズ。甚シク興奮シテ他人ノ妨害トナル如キ患者ノ爲メ別ニ隔離浴裝置アリ。定義溫泉ハ精神病者ノ民間水治療方場トシテ理想ニ近キモノナリ。

(大正六年下田光造觀察報告)

第三節 精神病ノ民間藥竝ニ迷信藥

樺田ハ大正三年ニ富山縣下ノ私宅監置ノ狀況ヲ觀察スルニ當リ、賣藥ヲ以テ有名ナル富山市ニ於テ精神病又ハ所謂腦病ニ對シテアリト稱スル賣藥ニ就キテ調査シ、ソノ種類ニ次ノ如キモノアルヲ知レリ。

猿頭・狐舌ノ黑燒・鹿ノ胎兒ノ黑燒・玉牛黃・川芎（膏瀉）・路ノ根

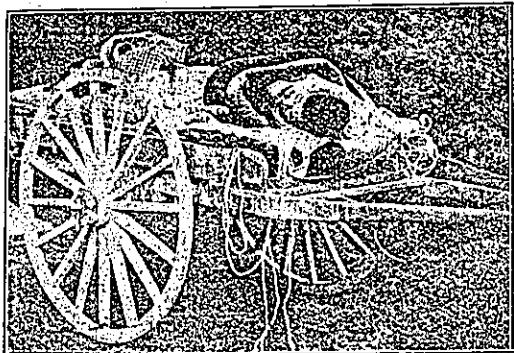
猿頭ハ猿ノ頭蓋骨ヲ黑燒ニシタルモノニシテ、頭蓋骨ノ原型ヲ有スルモノハ一個三、四圓ヲ價ス、多クハ粉末ニセシモノヲ一匁幾錢ヲ以テ販賣ス。 狐舌ノ黑燒モ粉末トナス。 鹿ノ胎兒ノ黑燒ハ血ノ道ニ效アリト言ハレ。 玉牛黃ハ老牛ノ膽石ニシテ塊地利産ノモノ最上等ト稱セラレ、五疳・驚風・中風ニ效アリト稱セラレ。 結石ヲ削リ粉末ト爲シテ之ヲ販賣ス。 凡テ以上ノ諸藥ハ湯ニ投ジ服用スルナリ。 路ノ根ハ賣藥ニアラザレドモ之ヲ大根卸シニシテ服用スレバ、治疳又祛痰ノ劑トモナルト稱セラレ。 川芎ハ和漢藥中最モ人口ニ膾炙スルモノニシテ古來腦病・癩病又ハ婦人病ニ效アリト稱セラレ、如ク、本草ノ根ヲ暴乾セシモノヲ鬻賣ス。 富山賣藥行商人ハ全國到處ニ足跡ヲ印セザルナキ狀態ナレバ、此ノ如キ賣藥モ或ハ廣ク各地方ニ於テ應用セラレ居ルヤモ知レズ。

報告書中ニハ、爲ノ黑燒又ハ酸漿ノ根ト柘榴ノ皮トヲ煎劑シテ飲用セシメ（第三例）。 穿山甲ノ粉末ヲ服用セシメ、茗荷ノ古根ヲ大根卸シニシテ服用セシメ、又ハ、 薑木ノ煎劑ヲ服用セシメントセシ例アリ（第三十九例）。 猶、戰慄スベキ迷信的煎劑ヲ用ヒタル實例モアリ、即、 臍ノ緒ノ乾枯シタルモノヲ煎浸シテ用ヒ、 又人知レズ墓ヲ發掘シテ棺ノ側ニ孔ヲ穿テ、 屍體ノ骨ヲ盜ミ取リテ、之ヲ煎浸シテ服用セシメシアリ（第七十四例）。 墓場ヨリ人骨モ雜リ居ルト思惟セラル、土塊ヲ取リ來リ之ヲ浸煎シテ服用セシメシガ如キモノ是ナリ（第四十二例）。

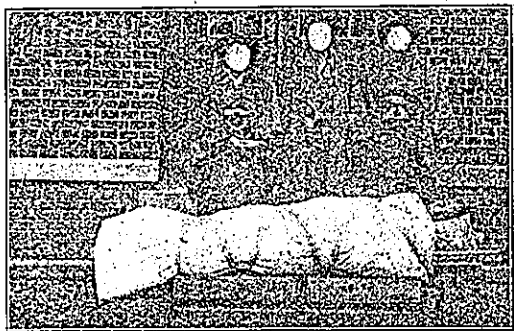
第四節 精神病者輸送方ノ實況

精神病者ヲ入院セシムル場合、自宅ヨリ精神病院マデ如何ナル方法ヲ以テ輸送スベキカハ多クノ家族ノ苦慮スル所ナリ。

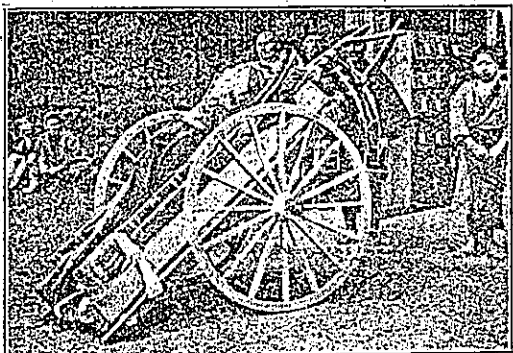
(號二十八第)眞 寫



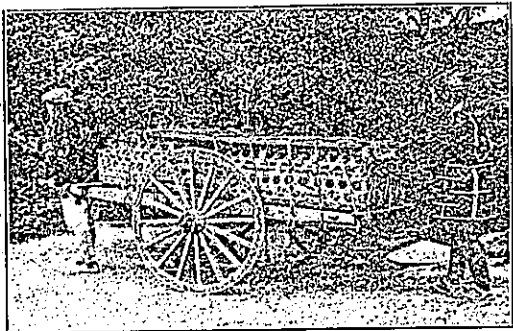
(號三十八第)眞 寫



(號四十八第)眞 寫



(號五十八第)眞 寫



リ。患者ガ從順ニシテ自身ヨリ入院ニ對シ同意ヲ表スル場合ニハ毫モ焦慮スベキ所ナキモ、然ラザル場合ニハ種々ノ困難ニ遭遇スルコトアリ。例ヘバ、患者ガ比較的靜穩ナル狀態ニアリテモ、ソノ入院ヲ忌避スルニ當リテハ家人ハ多ク之ヲ欺瞞シテ病院ニ連レ行キ、其儘入院手續ヲ済マスガ爲メニ、患者ハ入院後モ永ク家族ヲ怨嗟シテ止マスコトアルハ注意スベキ事ニ屬ス。家人ノ最憂慮スル場合ハ患者ガ興奮シ、亂暴ヲ行フ時ニシテ、資力アルモノハ自動車・馬車或ハ人力車ヲ用ヒテ之ヲ輸送スルモ、其際ニモ往々手足ヲ束縛スルモノアルヲ認ム、或ハ病院ニ依頼シテ醫員看護人ノ出張ヲ請フテ之ヲ連レ行クモノアリ。然レドモ、資産ニ乏シキモノニ於テハ斯ル方法ヲ採ルコト能ハズ、患者ノ身體ニ種々ノ拘束ヲ施シ家族自ラ途中ヲ警戒シテ病院ニ至ルモノ少ナカラズ。例ヘバ、患者ノ手ヲ縛リ、腰ニ繩ヲ結び、徒歩ニテ之ヲ引率スルコト、恰モ警官ガ罪人ヲ護送スルガ如キ觀ヲ呈スルモ



ノアリ、或ハ荷車ノ上ニ籠ヲ載セ其中ニ蒲團ヲ敷キテ患者ヲ横タヘ、戸板ヲ以テ籠ヲ蓋ヒ、更ニ繩ヲ以テ幾重ニモ纏絡シテ之ヲ牽引シ來ルコト、小牛・豚等ヲ荷車ニ乗セテ市中ヲ運搬スルニ勞弊タルモノアリ。或ハ又患者ヲ蒲團ノ中ニ卷キ込ミ、之ニ繩ヲ懸ケテ暴行スル能ハザル様ニナシ、ソレヲ荷車ニ乗セテ病院ナドニ運レ來ルモノアリ。此ニ掲ゲタル寫眞圖(第八十二號乃至第八十六號)ハ、イヅレモ皆禁殺ノ下ニ行ハレタルソノ實況ナレバ、邊陲僻地ニ於ケル運輸方ニ至リテハ蓋シ思ヒ半ニ過グルモノアラン。此ノ如キ悲惨ナル又詬辱甚キ處置・待遇ヲ受クルコト患者ノ不幸・不面目實ニ甚シト云フベク、此ノ如キ醜態ノ人心ニ與フル影響ハ如何バカリゾヤ、ソガ都市ノ外觀ヲ損ヒ、民俗ノ儀表ヲ紊ルコトモ甚キハ、誠ニ痛恨ノ極ミト謂ハザルヲ得ズ。

第五章 私宅監置ノ統計的觀察

第一節 總 說

我が教室ニ於テ私宅監置ノ觀察ヲ行ヒタルハ一府十四縣ニシテ、全國道府縣ノ約三分ノ一ニ當リ、吾人ハ前掲ノ諸實例ニ就キ其實況ノ一部ヲ知り得タリ。各府縣ニ於ケル實況ハ何レモ大同小異ニシテ、府縣ニヨリ特別ニ逕庭アルヲ認メズ。故ニ觀察セシ全例ニ就キ其統計的觀察ヲ行ハ、亦以テ全國ニ於ケル私宅監置ノ一般情勢ヲ窺フニ足ルモノアルニ庶幾カラシム。順次左ニ列舉スベキ統計表中、アル府縣ノ記載ナキモノアルハ當該報告書中ニ其事項ニ關シ詳細ノ記事ヲ闕キタリシニヨル。静岡縣ニテハ觀察時、被監置者ガ外出中ニテ親ク之ヲ觀察シ得ザリシモノ一名アリタルヲ以テ被監置者總數ヲ算出スル場合ニハ、該縣ノ患者計一六ハ一五トシテ計算シタリ、長野縣ニテハ觀察セシ監置室中、其收容セル監置者ノ既ニ死亡セシモノ一名アリ、故ニ同縣ノ患者計ハ統計事項ノ種類ニ從ヒテ、或ハ二五トシ或ハ二六ト記載シタリ。猶ホ山梨縣ニテハ同一被監置者ニテ新舊二個ノ監置室ヲ有スルモノト同一監置室ニ二名ノ被監置者ノ居ルモノト

アルモ、其患者計ハ差引常ニ同一(十三)ナリ。又富山縣ニテハ被監置者ノアラザル市立監置室一個ヲ觀察セリ。故ニ同縣ノ計ハ監置室ニ關スル分ハ三トシ、被監置者ニ關スル分ハ三〇ト記載セリ。

第二節 男 女

第二表 被監置者ノ男女別

府縣別		男女別		男	女	計
府	縣	男	女			
東京府		一一	四	一五		
神奈川縣		一〇	四	一四		
埼玉縣		二二	三	二五		
埼玉縣		二	三	五		
群馬縣		八	二	一〇		
千葉縣		一七	五	二二		
茨城縣		七一	一〇	八一		
靜岡縣		一三	三	一六		
山梨縣		九	四	一三		
府縣別		男女別		男	女	計
府	縣	男	女			
長野縣		一九	七	二六		
福島縣		二四	三	二七		
青森縣		二二	八	三〇		
富山縣		二八	二	三〇		
廣島縣		七	三	一〇		
合計		二四一	五八	二九九		
百分比例		八〇・六	一九・四	一〇〇		

被監置者ノ男女別、被監置者ヲ男女ニテ區別スルニ、男子ハ女子ニ比シ遙ニ多數ニシテ、實數二九九人中、男子二四一人、女子五八人ナリ。之ヲ百分比例トスレバ男子八〇・六「プロセント」ニ對シ女子一九・四「プロセント」ニシテ、大凡男子四人ニ對シ女子一人ノ割合ナリ。

第三節 年 齡

第二表 視察時ニ於ケル被監置者ノ年齢別

府縣別	十六歳	二十一歳	二十六歳	三十一歳	三十六歳	四十一歳	四十六歳	五十一歳	五十六歳	六十一歳	六十六歳	七十一歳	七十六歳	八十一歳	八十六歳	九十一歳	九十六歳	未詳	計
東京府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
埼玉縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
群馬縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
千葉縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
茨城縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山梨縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長野縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福島縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
富山縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
廣島縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	五	二四	三四	四六	四五	二七	三三	一九	一五	五	四	一	一	五	二六四	—	—	—	—
百分比	一九	九・二	一二・九	一七・四	一七・〇	一一・二	一一・五	七・二	五・七	一・九	一・五	〇・四	〇・四	一・九	一〇〇	—	—	—	—

被監置者ノ年齢、最高ハ八十五歳(第四十六例)ニシテ、最低ハ十八歳前(實例以外)ナリ。之ヲ兩極トシテ被監置者ノ最モ多キ年齢ハ三十一歳乃至三十五歳(一七・四「プロセント」)及ビ三十六歳乃至四十歳(一七・〇「プロセント」)ナリ、即チ三十歳乃至四十歳ノ成年者ノ多數(三四・四「プロセント」)ガ空シク一室ニ監置セラレタルモノトス。之ニ次ギテ多キハ二十六歳乃至三十歳ノ壯年者(二二・九「プロセント」)及ビ四十六歳乃至五十歳ノ初老者(一一・五「プロセント」)ニシテ、

更ニ之レニ次グヲ四十一歳乃至四十五歳(二〇・二「プロセント」)ト二十一歳乃至二十五歳(九・一「プロセント」)トス。五十歳以後ノモノハ其數次第ニ減ジ、五十一歳乃至五十五歳ノモノ七・二「プロセント」、五十六歳乃至六十歳ノモノ五・七「プロセント」トナリ、六十一歳以上ノ老年者ハ暴減シテ一・九「プロセント」乃至〇・四「プロセント」トナル。二十歳以下ノ未成年者モ同ジク少數ニシテ一・九「プロセント」ニ過ギズ。

第四節 資産

第三表 被監置者ノ資産別

縣別	資産別	上	中	下	計	縣別	資産別	上	中	下	計
埼玉縣	上	—	—	—	—	福島縣	上	—	—	—	—
群馬縣	上	—	—	—	—	青森縣	上	—	—	—	—
千葉縣	上	—	—	—	—	富山縣	上	—	—	—	—
茨城縣	上	—	—	—	—	廣島縣	上	—	—	—	—
静岡縣	上	—	—	—	—	合計	上	—	—	—	—
山梨縣	上	—	—	—	—	合計	中	—	—	—	—
長野縣	上	—	—	—	—	合計	下	—	—	—	—
福島縣	上	—	—	—	—	合計	計	—	—	—	—
合計	上	—	—	—	—	百分比	上	—	—	—	—
合計	中	—	—	—	—	合計	中	—	—	—	—
合計	下	—	—	—	—	合計	下	—	—	—	—
合計	計	—	—	—	—	合計	計	—	—	—	—

被監置者ノ資産程度ハ便宜上之ヲ上・中・下ノ三等ニ大別シ、更ニ各等ニ就キ上・中・下ノ三小別トセリ。資産ノ多寡ノ標準ハ納税額ニ據リ又ハ警察署或ハ他家ノ近隣一般ノ人ノ推定ヲ基礎トシテ之ヲ定メタリ。上ノ上等ニ屬スルモノモ固ヨリ其居所附近ニ於テ第一流ト目セラル、ニ過ギザルモノニシテ、日本全國ニ於ケル富豪ノ標準ニ比較シタルニテラズ。中等ト稱スルモノハ恒産ヲ有シ相當ニ不自由ナク生活シ得ル程度ノモノヲ謂ヒ、下ノ下等ニ編入シタルモノハ赤貧ニシ

テ漸ク其日ノ餉口ヲ過ゴズモノ、例ヘバ雇人・小作人・日雇人等ヲ謂ヒ、猶ホ親戚ノ扶助ヲ受クルモノ、郷黨隣保ノ扶助ヲ受クルモノ、市町村ヨリ貧窮者トシテ扶助金ヲ受クルモノ、資産全クナキモノ等ヲ指シ。行旅病者等モ之ニ屬セシメタリ。其他ノ各等級ハソレゾレ以上各等級ノ間ニ位スルモノトス。

被監置者ハ貧困ナルモ其扶養義務者ハ相當ノ資産ヲ有スルモノモアリ(例ヘバ第六十八例等)、又被監置者モ扶養義務者モ共ニ貧窮ナルモノアリ(例ヘバ第六十六例・第六十七例・第九十二例等)、是等ハ何レモ下等ノ部ニ編入セリ。

同一ノ家ニ二人ノ被監置者アル場合ニモ(例ヘバ第十五例・第十六例等)、資産ヲ示ス數ハ之ヲ一個トセズ、二個トセリ。資産ト生活程度トハ多クノ場合一致スルヲ常トスルモ、時トシテハ例外モアリ。第五十三例ノ如キハ其一例ナリ。

被監置者ヲ永年扶養セル爲メ財産ヲ消耗シ、嘗テハ相當ノ生活ヲ營ミシモノニシテ貧困ニ陥リタルモノアリ。第三十九例・第五十一例・第五十二例等ノ如キハ即チ是ナリ。

被監置者ノ資産程度、第三表ニ見ルガ如ク實數二百七十名ニ就キテ之ヲ調査スルニ、最多數ナルハ下等ニシテ全數ノ過半數ヲ占メ二三七名(五〇・八「プロセント」)、次ニ多キハ中等一〇一名(三七・四「プロセント」)、最少數キモノハ上等三二名(一一・八「プロセント」)ナリ。更ニ之ヲ細別スレバ最多キハ最貧困者ナル下ノ下二六・三「プロセント」ニシテ、即チ總數ノ四分ノ一強ヲ占メ、之ニ次グラ中ノ中一五・九「プロセント」、中ノ下二三・四「プロセント」トシ、更ニ之ニ次グラ下ノ中二三・〇「プロセント」、下ノ上一一・五「プロセント」、中ノ上八・一「プロセント」トシ。少數ナルハ上等ノ各等ニシテ、上ノ下八五・九「プロセント」、上ノ中八四・八「プロセント」ナルガ、上ノ上ハ最少數ニシテ僅ニ一一・一「プロセント」ナルニ過ギズ。

第五節 職業

第四表 被監置者ノ職業別

縣別	職業別					縣別	職業別				
	庶業	農業	工業	商業	計		庶業	農業	工業	商業	計
埼玉縣	二	八	三	二	一五	長野縣	七	一五	二	二六	
群馬縣	四	四	二	一	一〇	福島縣	一	二四	一	二七	
千葉縣	八	一二	一	一	二二	富山縣	五	一九	三	三〇	
茨城縣	一五	五九	三	四	八一	廣島縣	三	四	一	一〇	
靜岡縣	五	九	一	二	一六	合計	五二	一六二	一五	二二〇	
山梨縣	三	八	一	二	一三	百分比例	二〇・八	六四・八	六・〇	八・四	

右表中ニ記載シタル庶業トハ僧侶・教師・官吏・書記・學生・仲買人・理髮師・小使・車夫・日雇人等ヲ云ヒ、工業トハ大工・塗物師・活版職・桶職・製絲業・時計製造職・職工等ヲ云ヒ、商業トハ酒商・油商・茶商・穀商・小間物商・魚商・青物商・菓子商・下駄商・肥料商等ヲ云フ。本業ノ外ニ副業ヲ兼スルモノ及ビ女子又ハ職業ヲ有セザルモノハ何レモ家計ノ主ナル職業ヲ以テ其職業ト看做セリ。甚稀ナレドモ職業ノ不詳ナルモノアリ、是ハ假ニ庶業中ニ編入セリ。

被監置者ノ職業(職業ナキモノハ家計ノ主ナル職業)、農業ハ六四・八「プロセント」ニシテ過半數ヲ占メ、次ニ位スルハ庶業二〇・八「プロセント」、商業八・四「プロセント」、工業六・〇「プロセント」ナリ。

第六節 監護義務者

第五表 監護義務者別

縣別	祖父	實父	養父	實母	繼母	夫	妻	實子	養子	兄	弟	姉	妹	父伯叔	母伯叔	甥	弟從兄	其他	市長町長	計
千葉縣	一	一〇	一	二	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二二
群馬縣	二	一	一	二	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇

比百分例	合計	廣島縣	富山縣	福島縣	長野縣	山梨縣	靜岡縣	茨城縣
一七	四	一	一	一	一	一	一	一
五九〇	五九	二	七	六	四	二	三	三四
〇八	二	一	一	一	一	一	一	一
三六	三三	一	八	四	三	一	三	一〇
〇八	二	一	一	一	一	一	一	一
二五	六	二	一	二	一	一	一	一
一九五	四六	二	五	五	四	二	二	一一
五二	一二	一	一	一	二	一	二	六
一七	四	一	一	一	一	一	一	一
八九	二一	一	三	六	六	一	一	三
五五	一三	一	一	一	三	二	一	四
〇八	二	一	一	一	一	一	一	一
一三	三	一	一	一	一	一	一	二
〇四	一	一	一	一	一	一	一	一
〇四	一	一	一	一	一	一	一	一
一七	四	一	一	一	一	一	一	二
一三	三	一	一	一	一	一	一	一
二九四三	七二〇	一	一	一	一	一	三	二
一三	三三三	一	三	一	一	一	一	一
二〇〇	三三五	一〇	三〇	二七	二六	一三	一六	八一

監護義務者ノ被監置者ニ對スル姻戚關係、監護義務者中最多キハ父(實父二五・〇「プロセント」、養父〇・八「プロセント」、合計二五・八「プロセント」)ニシテ、其次ニ多キハ妻(一九・五「プロセント」、母(實母二三・六「プロセント」、繼母〇・八「プロセント」、合計一四・四「プロセント」)。又次ハ兄(八・九「プロセント」、子(實子五・一「プロセント」、養子一・七「プロセント」、合計六・八「プロセント」、弟(五・五「プロセント」)ナリ。其他、夫(二・五「プロセント」、祖父(二・七「プロセント」、姉(〇・八「プロセント」、妹(一・三「プロセント」)ハ少數ナリ、又、伯叔父母ハ何レモ甚少數(〇・四「プロセント」)ニシテ、之ニ比スレバ甥(二・一「プロセント」、從兄弟(一・三「プロセント」)ノ方比較的多シ。

監護扶養義務者ノナキモノ（窮民・行旅病者等）ニ對シテハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ、市長・町長ノ監護義務者トナリ居ルモノ十四例アリシモ（第五表以外ニ埼玉縣ニ町長ノ一例アリタリ）、區長・村長ガ監護義務者タル場合ハ視察例中ニハ之ヲ認メザリキ。即チ被監置者全數三百六十一人中、私人ノ監護義務者ハ三百四十七人（九六・一「プロセント」）ニシテ、公吏ノ監護義務者ハ十四人（三・九「プロセント」）ナリ。

第七節 監置ノ理由

第六表 監置ノ理由別

比百分例	合計	廣島縣	富山縣	福島縣	長野縣	山梨縣	靜岡縣	茨城縣	千葉縣	群馬縣	縣別件別
七・七	一一・二	七	一三	一四	一三	二	五	四七	二	九	財暴家人ニ破行家ニ毀家ニ
一六・五	六・七	一	九	九	一六	七	七	一〇	三	六	ニ又ハ屋敷ノ外周圍ノ地ノ倒
一・五	六	一	二	一	三	一	一	一	一	一	關官ニ衝
五・四	二・二	一	三	二	四	一	二	五	四	一	ス品地人ノ家宅ノ侵入ノ物出
一・七	七	一	二	一	一	一	二	一	一	一	亞非人ノ侵入ノ嫌疑ヲ
九・二	三七	一	一	一	二	一	五	三一	一	一	行ニ他人暴
二・二	九	二	一	一	一	一	一	六	一	一	壞風俗
一・二	五	一	一	一	一	一	一	一	二	一	浮浪
三・七	一五	一	三	二	一	一	一	八	一	一	放火
四・〇	一六	一	二	三	一	二	一	七	一	一	ス火弄氣
一・二	五	一	二	一	一	一	一	一	一	一	殺家人害
二・五	一〇	一	四	一	一	一	一	一	四	一	未殺家人害
二・〇	八	一	一	三	一	一	二	一	一	一	傷家人害
四・四	一八	一	二	三	二	一	一	一〇	一	一	傷他人害
三・二	一三	一	二	二	二	一	一	五	二	一	未傷害
二・二	九	一	一	一	一	一	一	五	一	一	企自圖殺
〇・五	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	破佛神壞閣社
〇・二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	事不敬
一・〇・六	四三・四〇・五	五	六	三	五	四	二	九	三	六	其
一・〇・〇		一八	五四	四五	五一	一八	二五	一四四	三七	二三	合計數

第六表ハ被監置者カ嘗テ監置前ニ犯觸シタル事件ヲ分類シテ揭示セルモノニシテ、同一人ニシテ一件以上ニ關係アルモノハ各自別々ニ計算セリ。表中「其他」ト記載アルハ飲酒後惡癖甚ダシキモノ・無錢遊興・無錢乘汽車・濫費・放火・脅迫・怒罵叫喚・誘拐セラレシモノ・放火又ハ殺人念慮ノアルモノ・不詳等ヲ含ム。

監置ノ理由、全部、被監置者ニ社會的危險性行爲アリシニ基クモノナリ。ソノ主ナルモノヲ舉グレバ、危險性行爲ノ中